

一年の計は、**診断**にあり。

学校広報 魅力最大化 計画 Cross Media!

広告掲載に関するお問い合わせ・お申し込みは

【発行元】株式会社 モノリスジャパン 〒171-0033 東京都豊島区高田3-18-9Mailビル6F
TEL/(03)6915-2551 FAX/(03)6915-2552 Mail/info@monolith-j.com

「私教育新聞web」は株式会社モノリスジャパンのコーポレートサイトへ移行しました。本紙バックナンバーはこちらからご覧いただけます。



<https://monolith-j.com/>



MagniLearn

AIが進化させる。
まったく新しい
英語4技能学習システム

学校向け

GET
MagniLearn
Test & Learning System

AI英語4技能判定テスト&
AI英語学習システム

主対象/高校生・大学生・社会人
目的/クラス編成・英語力レベル判定・英語検定対策など

塾向け

MagniLearn
Intelligent Language Learning

ME MagniLearn English
マグニラーンAI英語学習システム

主対象/小学生・中学生・高校生
目的/授業の4技能対応・学習効率化・英語検定対策など

GETの特徴

AIを駆使し受験者の4技能を測る40分のオンラインテスト

- 受験者の解答に応じて、出題形式が変化
- 4技能を測る出題形式
- 得点にもとづくCEFRレベルとともに、TOEIC®、TOEFL®、IELTS®、英検®の換算点も表示。
- CEFR A1~C2レベルに対応

テスト結果に完全にリンクした学習システム

- 各受験者のテスト結果をAIが分析。
- 個別最適化された3ヶ月の学習システム。
- 利用状況・学習内容に応じてAIがさらに分析・個別最適化。
- 受講期間中はいつでも・何度でも学習システムを利用可能。

受験者のテスト結果・学習状況を効率よく管理

解答分析に応じてフォローアップする問題を自動生成。蓄積された生徒の解答傾向を分析することにより、教師による細やかな指導をサポート。

体験用デモアカウント発行!
さらに、私教育新聞を見た!で特別価格でご提供します。
まずはコチラのQRコードからお問い合わせください!



AIC Education

株式会社AICエデュケーション
グローバル教育事業本部

〒730-0037
広島市中区中町1-1
Tel: 082-541-5819
HP: www.aic-osshu.jp/magnilearn

教育プロデュースChannel
でも取り上げられました!
ご視聴はコチラから →



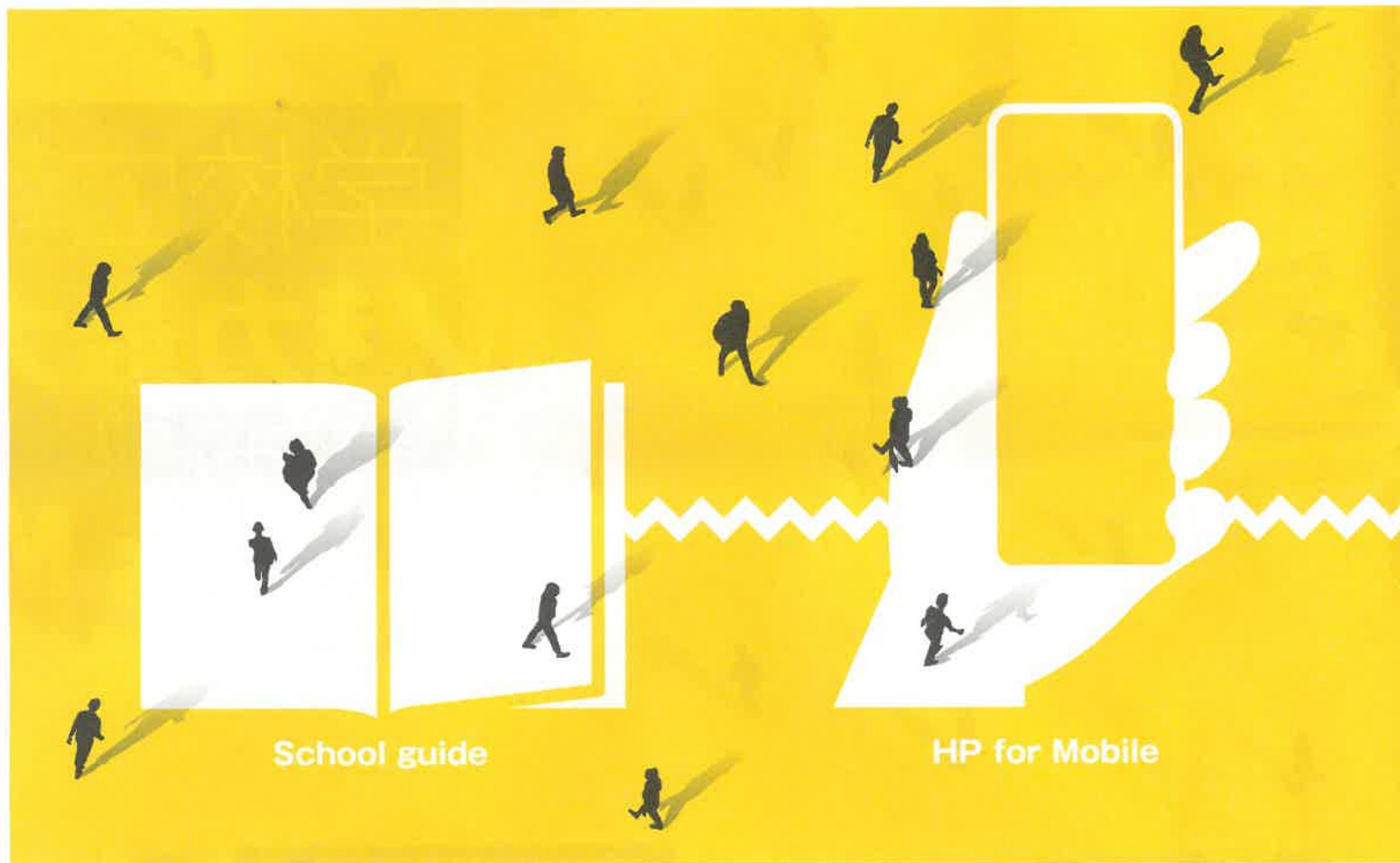
ツール

学校HP、広報ツール

受験生・保護者に届いている？ 「知りたい」に 応えている？

HPを“ハブ”として複数のメディアを連動させ、
行動喚起を引き起こすクロスメディア戦略

学校案内、ホームページはもちろんのこと、
YouTube動画、LINE、Twitter、Instagram…、
様々なメディア、SNSから情報を収集し、
比較しながら学校選定をする受験生・保護者たち。
情報過多の社会において、学校に興味を持たせ
イベント参加や出願へとつなげるためには、
施策メディア全体の流れを設計して
一貫性のあるコミュニケーションが必要不可欠。
今回はホームページをHUBとした
戦略的広報プロモーションの最適解を紐解いていきます。



1. 多様化・複雑化する施策メディア。 今はまさに広報ツールの総点検の時期。

ますます進展するデジタル化の波。スマートフォンの所有率はいまや94%に達し(モバイル社会研究所調査より)、また新型コロナウイルス感染症拡大の影響も重なり、学校広報のプロモーション施策も転換期にあると言えます。かつては、「イメージ醸成・教育特色の概要説明はパンフレットで、より具体的・網羅的な情報はHPで」という大まかな流れがありましたが、昨今は、受験生・保護者はスマホサイトを軸としつつも、様々なSNSを駆使して、色々なメディアを横断しながら学校情報を取得・収集するようになっています。多様化、複雑化するターゲット行動に応じて、最適なタイミング・ツールをもって効果的なアプローチを行うために、今一度広報ツールの役割と連携を見直す必要があるのです。入試広報に携わる先生方で本人が一番それを感じているのではないのでしょうか。

2. ホームページをハブとして メディア特性を生かした全体設計に。

今やどの学校のHPも、PCやスマホ・タブレット等あらゆるデバイスサイズに対応して、見せ方が最適化されるレスポンシブデザインが実装されています。スマホからいつでもどこでも閲覧できるHPは発見から興味喚起、行動促進までを総合的に担うメディアとして、デザイン性だけでなく、更新コンテンツや他媒体との連動等も含めてその役割が重要視されています。気軽に何度でもアクセスでき、最新の情報を随時取得できるHPをハブとして多くの学校が全体プロモーションを設計していると言えます。当然、学校案内パンフレットの在り方もそれに依って変わりつつあります。HP、SNSの運用も視野に入れながら、それぞれのメディア特性を理解した上でアプローチ方向を探らなければならないのです。単にデザインを良くすればいい、わかりやすく見やすいパンフレットをつくれればいいだけではない、複雑化するプロモーションにお困りの先生方も多いようです。

3. 受験生・保護者の行動に沿って 単発ではなく統合的なアプローチを。

受験生・保護者が一つの学校を志望校として検討する機会や、実際に足を運ぶ機会はいくつかあります。生徒募集アプローチのフェーズも大きく分類すると「1.発見段階/2.興味喚起段階/3.学校理解段階/4.行動段階/5.確認段階」に分けられます。この5つのアプローチフェーズごとに、どのツールでどのようなアプローチをするかを設計しなければなりません。また、HPとパンフレットなど、各ツールの接続・連携も重要に。ポイントはあらゆるメディアにおいて、コンセプトや表現に一貫性を持たせること、そして各ツールの役割分担を明確化して連動を図ること。単発ではなく、多角的、統合的なアプローチによって、途中で離脱することなく興味・関心を入学動機へとつなげていく「クロスメディア戦略」が大切です。

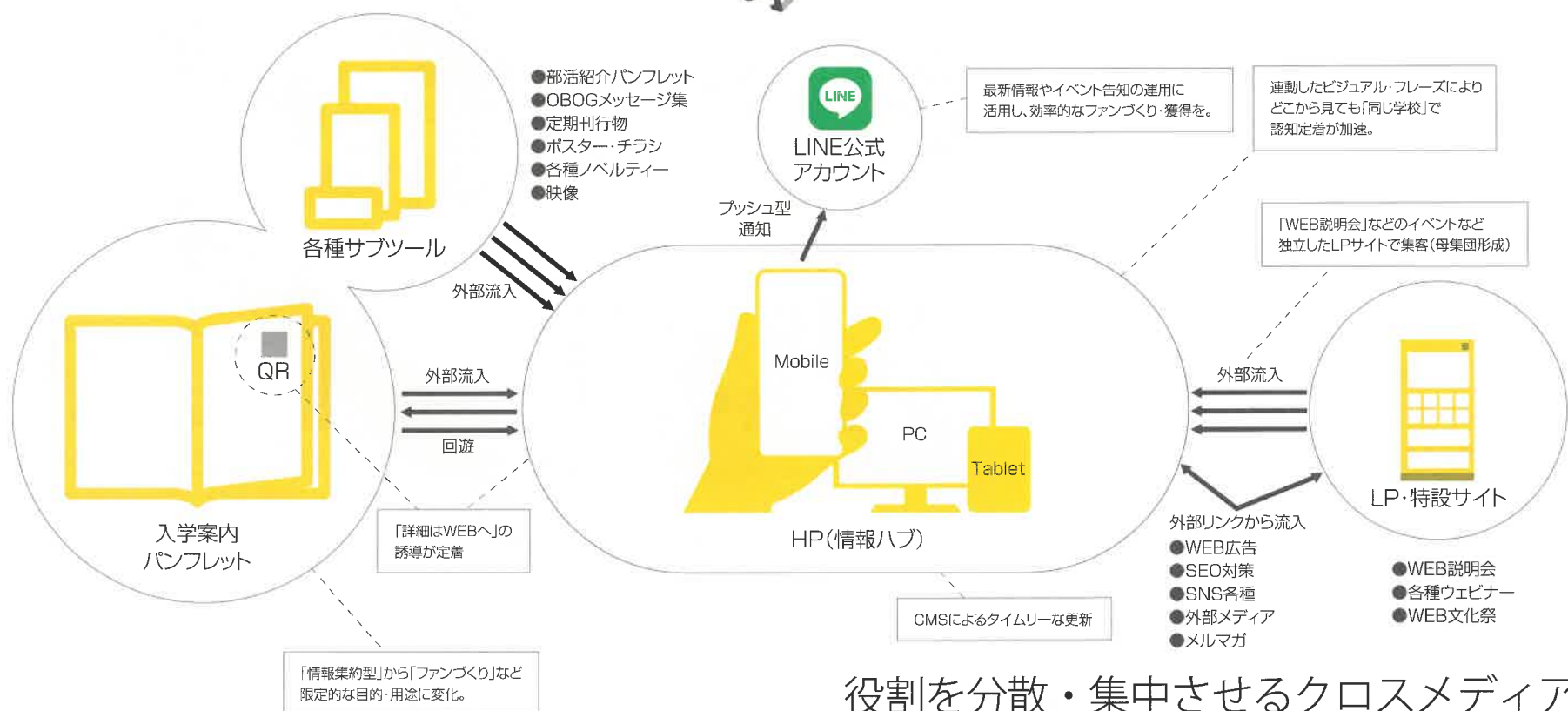
4. ブランディング(ブランド育成)とともに ナーチャリング(顧客育成)という視点も。

例えば「御校って、どのような学校?」という問いかけに対して、教職員全員が「〇〇な学校」という答えを必ず返せるようになること。さらに、地域の受験生・保護者からも、同じ答えが返ってくるようにすること。これが学校ブランディングだと考えています。学校の一番の魅力・強み・独自価値を明確化し、認知浸透させるというブランド育成の発想です。これに対して、ナーチャリングという言葉聞いたことはあるでしょうか。直訳すると「見込み顧客の育成」という意味をもつこの言葉。近年、学校広報においても、SNS運用やメール配信を通して認知から出願まで受験生・保護者の関心を高めていく「ナーチャリング」施策に注目が集まっています。ターゲットに更新情報をプッシュ通知できるLINE公式アカウントの活用等が、スマホ時代に適したナーチャリング施策の代表例。イベント参加者への継続的なアプローチ、学校情報の定期的な発信が可能となり、現在の効果的な広報手段の一つと言えるでしょう。

学校広報 魅力最大化 計画 Cross Media!

HP for PC & Tablet

Sub tool



5. 学校側の「伝えたいこと」だけでなく、受験生・保護者の「知りたいこと」という視点。

学校広報において、とりわけHPにおいて大切なことは、学校側の「言いたいこと、伝えたいこと」だけを掲載するのではなく、受験生・保護者の視点に立って、「知りたいこと、見たいこと」に応じた情報・コンテンツを発信して行くことです。パンフレットで興味をもった人は、HPで鮮度の高い情報、より深い情報を得てさらに学校に関心を高めるでしょう。LINEアカウント配信と連動させ、HPのトピックスを更新していれば、それを見るのが楽しみの一つになるかもしれません。各ツールから呼び込んだ訪問者の「もっと知りたい」にしっかりと応え、求める情報を定期的に提供することで、学校のファンを増やしていく。

ただデザイン・表現を統一することがクロスメディアではありません。ターゲットのニーズ・各ツールの役割を把握した上で、提供情報を最適化していく。それこそが効果的なクロスメディア施策なのです。

4つの軸で 貴校のHPを 無料診断

モノリスジャパンの「デジ推」は、
HPのスペシャリストではなく
クロスメディアのジェネラリスト。

モノリスジャパンによるクロスメディア事例

八王子学園

各広報ツール間で一貫性ある
コンセプトと情報設計により、
受験生・保護者の認知と理解、双方を促進。



CMS主体のHPで、先生方がブログ感覚で日常的に更新。パンフレットでは出しきれない日常の空気感を様々な粒度で伝えることを可能に。HP・パンフレット・映像の各ツールにおいて、広報コンセプトに一貫性を持たせながら常に新しい情報を提供し続けることに成功しました。

鎌倉女学院

パンフレットで教育内容を示しつつ、
HPで教育を通し成長した卒業生の声を
深掘りして掲載。
説得ではなく納得してもらえる広報活動に。



パンフレットの各ページにQRコードを掲載。授業内容や卒業生の声など、さらに詳しい情報はHPへ誘導する仕掛けに。HPはCMSを使用して更新頻度を高め、パンフレットの情報を深掘りできるクロスメディア施策を実施し、受験生・保護者にとって納得感ある広報活動を実現しました。

学校広報 魅力最大化 計画 Cross Media!

6. 貴校のHPの客観的評価を一度試してみませんか。


さて、それでは貴校のHPは新時代対応やクロスメディア戦略という観点から、効果的な構造になっているでしょうか。「なんとなく機能していると思う」「オープンキャンパスのアンケートでもHPに好意的な意見が多い」など、教職員の皆様の肌感覚での判断は、実情と違っている場合が多々あるかもしれません。ターゲットに適した表現・構成・機能になっているかどうか、第三者の客観的な評価をぜひ数字で知りたいところではないでしょうか。HPの更新頻度、デザイン性、使いやすさ、他の広報ツールとの統一性などを一つひとつ具体的な点数で診断できる機会があったら、試してみたいとは思いませんか?そのようなHPに関するお悩み・ご要望に応え、より円滑な広報プロモーションの推進をサポートするべくモノリスジャパンでは、『HP無料診断』を行っています。詳細な評価項目に分けられた診断書を作成して、それにもとづき課題点・改善点などをご提示させていただいています。

7. 「閲覧数の増加」から「短時間離脱の解消」、「効果的なクロスメディア施策のご提案」まで。

私たちは、自覚症状があってもなくても、年に1回の健康診断の結果に一喜一憂します。どこも悪いところがなければ今の生活を維持しようと思ひ、要注意となれば生活習慣を見直して改善を図ります。HPも人間同様、定期的な診断を行いPDCAサイクルにもとづき運用・改善をしていく必要があると考えます。「全然更新できていない」「更新しているけど見てもらえない」などのお困りごとがある場合はもちろん、「より多くの人に訪問してもらうためには」「短時間での離脱を防ぐには」「資料請求率をより高めるには」など具体的な課題解決法もご提案させていただきます。ぜひお気軽に『HP無料診断』をご利用ください。教育専門の広告代理店の「デジタル推進室」は、クロスメディアのジェネラリストとして、これまでの実績・経験に基づき、効果的なHPの在り方、そしてターゲットに適したクロスメディア戦略についてご提案をさせていただきます。御校の入試広報の円滑化に貢献できれば何よりです。

クロスメディア戦略に基づいた[デジスイのHP無料診断]

4
広報全体のコミュニケーション設計
score 00 / 25



NO. 広報全体のコミュニケーション設計 Score 0 0

01 各ツール間でコンセプト・トーン＆マナーに統一感はあるか

02 それぞれのメディア特性に合わせた異なる情報の掲載が確認されているか

03 パンフレットからwebサイトに誘引するコンテンツや導線設計があるか

04 タイムリーに各校の魅力を伝えるSNS運用/投稿/動画/フォロワーコメントなどができているか

改善策
Improvement

【入試広報トータルコミュニケーション設計】

HPだけに限らず、入試広報活動で使用する各ツール間で「キービジュアル」や「キーフレーズ」に一貫性があるか、また受験生のニーズに合わせて各メディア(HP、学校案内、YouTube、SNSなど)の特性を生かした情報発信をしているかを診断します。コミュニケーション設計の最適化により、受験生・保護者の接触効率の最大化や、教育内容の認知浸透、ブランドイメージの確立、継続的な接点づくりなどが実現できます。

モノリスジャパンのデジタル推進室にお任せください。

診断結果は具体的なレポートとしてご提出

HPの各項目評価から、SEO(検索エンジン最適化)、総合的な広報戦略まで、診断結果は具体的なレポート資料としてご提出し、あわせて改善策もご提案いたします。ご希望があればZOOMによる対面フィードバックも行っていますので、WEBの知識があまりない教職員の皆様も安心してお気軽に試していただければと思います。ぜひ一緒に、より良い広報プロモーションの形を模索・具現化していきましょう。



デジタル推進室がきめ細かくサポートします!

教育専門の広告代理店モノリスジャパンが立ち上げたデジタル広報に特化した部署「デジタル推進室」は、無料でご相談をお伺いしています。HP改善策のご提案、SEO対策提案はもちろん、これまで様々な媒体・ツールを扱ってきた知見を活かして学校広報のトータルプロモーションのご提案も行います。また弊社が運営するYouTubeチャンネル『教育プロデューズCH』でも、「成功する学校HP」について解説している動画を公開していますので、ぜひご覧ください。

【教育プロデューズChannel】(YouTube)もご覧ください



HPの活用術や運用のポイントなどについて解説する動画も多数アップしています。

外部評価を受ける機会がなかなかないので、参加してよかった

良い点悪い点を校内で共有し、よりよいサイト作りに取り組みたい

SNSとHPの連携に関する助言がとても参考になった

すでに全国50校以上のHPを診断

ぜひお気軽に「HP無料診断」をご利用ください。



お申し込みはコチラから→

クリエイティブ分析
score 00 / 25



NO. クリエイティブ Score 0 0

01 どのデザインツールにも、魅力的でキャッチーな表現となっているか

02 写真は、統一感があっても他の要素が揃っていないものとなっているか

03 真横に、情報の魅力が伝わるクオリティであるか

04 カラー・フォント・レイアウトを統一感あるテーマカラーで統一できているか

05 美しくかつ読みやすいレイアウト/読みやすいフォント/サイズ/配置であるか

改善策
Improvement

【クリエイティブ診断】

主にHPトップページについて、メインビジュアルのデザインやキャッチコピーがターゲットにとって魅力的でキャッチーな表現となっているか、デザイン性と視認性が両立できているか、また情報を探しやすいレイアウト(余白/フォント種類・サイズ/各ボタン位置など)であるかなどを検証します。

UX分析_サイト全体
score 00 / 20



NO. サイト構造「ユーザビリティ」 Score 0 0

01 ナビゲーションメニューは、コンテンツの属性に合わせたものになっているか

02 メニューのレイアウトは、検索のしやすさを考慮しているか

03 ユーザーアクションを促しやすいレイアウトになっているか

改善策
Improvement

【UX分析】

ユーザビリティの観点から、ストレス無いサイト表示速度やアクションを起こしやすい導線設計であるかを検証させていただいたり、NEWS・BLOGの更新頻度や競合サイトと比較しながらコンテンツの質を確認させていただいたりします。

SEO対策状況(3)
score 00 / 10

キーワード別順位比較

【2022 年1月】での上位サイト比較です。現在対象サイトの順位は11位です。

順位	キーワード	順位	順位	順位	順位	順位	順位
1	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
2	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
3	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
4	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
5	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
6	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
7	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
8	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
9	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11
10	私立学校 入試情報	11	11	11	11	11	11

改善策
Improvement

【SEO対策状況】

検索エンジン最適化のための対策が取られている状態かを診断します。具体的には、SEO対策の方法の基本をご説明させていただきながら、ある関連キーワードで検索した場合の現在の表示順位や競合サイトと比較の上、必要な対策を分析します。

株式会社モノリスジャパン

MONOLITH Japan co., Ltd.

教育専門広告代理店

東京オフィス 〒171-0033

東京都豊島区高田3-18-9Maliビル6F・1F

TEL 03-6915-2551(代) デジタル推進室/菅原

●私立学校:入試広報計画・企画・各種広報ツール制作
●学習塾:生徒募集広報全般・ブランディング・新卒採用支援

私教育 最前線

本誌バックナンバー
はコチラから!



23年入試 付属沈静化 進学上位校に波



もりがみ のぶやす
森上 展安

(株)森上教育研究所 所長

1953年岡山県生まれ。早稲田大学法学部卒業。
東京第一法律事務所勤務を経て都内で学習塾「ぶQ」を経営後、88年に(株)森上教育研究所を設立。中学受験、中高一貫の中等教育を対象とする調査・コンサルティング分野を開拓した。
私塾・私学向けに「中学受験と私学中等教育」を月刊で発行している。
中学受験生の父母対象に「わが子が伸びる親の「技」(スキル)研究会」セミナーをほぼ毎週主催。著書に「10歳の選択 中学受験の教育論」、「中学受験入りやすくお得な学校」(いずれもダイヤモンド社刊)。

セミナーのお知らせ

2023年首都圏中学入試の結果と分析

大手塾分析

■日 時：2023年2月18日(土)9:00~12:00

■会 場：アルカディア市ヶ谷私学会会館

※動画配信は2月20日(月)17:00~

私教育最前線

23年首都圏中学入試 22年並みに

22年11月の4大模試の受験者数が昨年並みとなり49,039名を数えた。昨年同期が48,556名なので前年比は101%となり約500名弱増加している。

4大模試のうち上位生が多いサピックスが前年比106%である以外は日能研、四谷大塚、首都圏模試のいずれも前年並みの数字となっている。

もともと四谷大塚と首都圏模試は約14,000人、日能研が約12,000人であるのに対してサピックスは約8000人と絶対数では4000人から6000人少ない母集団だ。ではあるが最上位生を多く抱えている母集団であり、サピックス模試受験者数だけが伸びているのは、やはり上位校志向が来年入試で強まることに直結する。

私教育最前線

最上位校が大きく増加

実際その通りの志願状況になっていて、男子の最難関校開成が前年比(以下同)115%、駒場東邦が106%、栄光が110%、聖光が119%、筑駒が107%、また桜蔭が114%、雙葉が114%とまさに強気一色だ。

もともと麻布96%女子学院89%という例外はあるものの、麻布も女子学院も各年の増減を繰り返しており、その意味では前年が増加しているので緩和沈静化は想定内とも言える。

そもそも最難関コースの志望者数はこの数年のコロナによる影響で遠距離受験をしなくなったこと、また受験学力がオンライン学習で伸び悩んだことからこの数年沈静化してきた。

しかしここにきてまさに最難関校から復調を示したことは少なくとも最難関志望者数についてはコロナの影響を脱した兆しと考えられる。

私教育最前線

付属はほぼ沈静化

一方付属の代表格である慶應普通部や早稲田実業及びMARCHの付属校はほぼ沈静化している。慶應普通部94%、早稲田実業85%、明大明治89%、中央大学横浜79%、法政大167%、法政第二96%、明大中野84%など。

最も立教池袋は121%、立教女学院は107%、早稲田高等学院は111%であって、青山学院102%、中央大学も100%と必ずしも「付属すなわち沈静化」ではないように見えるかもしれない。

ただ見方を変えると青山学院や中央大を覗くと立教は別学校であり早稲田高等学院も男子校で、いわば別学人気は進学校人気=別学人気と考えればこうした矛盾とみえる人気の要素も捉えやすいかもしれない。またその青山学院の男子の受験者数は女子に比べ常に100人ほど少ないことを考えれば、全体に与える状況からは主流を占める女子受験生の減少の方が影響は大きいと言える。これは法政第二についても同じことが言える。

では明大中野は別学校ながら減少しているのは何故かと言われるかもしれない。

これには男子校・日本学園が明治大学の付属校となったことが要因であって、その日本学園人気は明大中野の沈静化をもたらした最大の要素だと考えられよう。あるいは

はまた共学付属の人気薄と言う現象として捉えるならば、共学難関校である渋谷が男子88%女子95%であることから指摘できるかもしれない。最も渋谷に関しては東大合格者増で難化を嫌った男子受験生の減少が大きいと思われる。

ともあれ付属の主流である共学付属の多くがここにきて沈静化しているのは間違いない。しかしそれは不人気ということではなく高倍率状況が若干緩和されるということであって、この数年の相対的に高い倍率がやや緩和されるにすぎない。とはいえMARCHに関しては大学の合格の厳しさが以前のように先高観から来る付属人気は明らかに沈静化してきた。というのもすでに高校では付属人気は昨年あたりから沈静化してきており中学受験でもその傾向が緩やかに生じてきていると思われるからである。

私教育最前線

上位校もしくは 半付属校の人気

もう一つの特徴は上位校人気だろう。すなわち男子別学校では海城120%、桐朋131%、芝113%と難関の次のレベルが高い人気となっている。このうち桐朋や芝はこの数年沈静化してきたのでその反動でもあるが、こうした準難関校人気もコロナの影響から脱出しつつある表ではなかろうか。

女子の上位校についても東洋英和120%香蘭111%と男子に符牒を合わせるように準難関校人気だが、前者の東洋英和は早慶上理実績が今春大幅に伸長しており、準難関化しつつある。また香蘭は立教女学院と同じく立教別学人気と捉える方が良いが、やはり準難関化しつつあるので学力上位層の併願先として認知されつつあることが変化の要因であろう。さらに青山学院横浜英和についても青山学院大学進学者が7割近くになったという実績が出たため準難関化し133%の人気ぶりとなった。

サレジオ111%、逗子開成109%も増加しており、東京の準難関の増加と合わせて別学人気は神奈川でも増大しているとみてよいと思われる。

この別学人気は中堅校にも及んでいて國學院久我山2回は113%であり、また高輪110%、品川女子2回117%、田園調布2回113%とそれぞれ高い人気となっている。

私教育最前線

共学国際系人気続く

付属校中心に沈静化は否めないがもう一つの国際系の人気は継続している。代表格の広尾1回は114%と相変わらずの上昇を示し、三田国際も106%とまぎれず。広尾小石川は大幅に難化したため文字通り半減しているが難化して窓の学力層による受験となっている。

以上、午前入試の模試での志望状況の特徴を記したが、ここでは1月入試と午後入試そして新規巻き直し校については模試データに限りがあり触れられていない。また当然ながら昨年並の志願者数である学校にも触れられていない。

逆に言えば変化はなくとも高人気状況にあるところは青稜、共立女子、かえつ有明、安田などやはり近年は湾岸部の学校に多くなっていることは付記しておきたい。

私教育 最前線

本誌バックナンバー
はコチラから!



「新レベル別問題集」 完成



でぐち ひろし
出口 汪

株式会社水王舎 代表取締役

関西学院大学大学院博士課程単位取得。代々木ゼミナール、東進ハイスクールの講師を歴任し、「国語の文章を論理的に読解する手法」を授業に取り入れ、一躍カリスマ講師としての人気を博す。その後、1993年には「総合予備校S.P.S」を、2000年には教材開発・出版を目的とした「水王舎」を設立する。2003年に発行した「論理エンジン」は、国語を感覚的に解くのではなく、筋道を追って論理的に解くことの重要性を説き、全国公立私学250校以上が採用するなど、大ヒットを記録する。広島女学院大学客員教授、基礎力財団評議員。著書「はじめての論理国語(水王舎)」「出口先生の頭がよくなる漢字(水王舎)」「知っているようで知らない夏目漱石(講談社)」など著書多数。



私教育最前線

「レベル別問題集」絶版

旧「レベル別中学国語問題集」「レベル別現代文問題集」はすでに絶版となっている。

累計六百万部を超える発行部数の、ベストセラー・ロングセラーの問題集だったが、すでに問題自体が古くなっていることと、限られたページ数で解説をしたため、解説自体がそれほど丁寧でなかったことなど、いくつかの改善点があった。

今回の新レベル別問題集はこれらを改善し、さらに進化したものとなった。およそ二年半をかけて、順次刊行していき、ようやくほぼ完成した。

私教育最前線

「新レベル別問題集」完成

「中学国語新レベル別問題集」の理論編・レベル1・2・3と、「現代文新レベル別問題集」の理論編・レベル1・2・3・4がすでに刊行。12月末にはレベル5が刊行される。

改善点としては、次の三点である。

- ①最新の入試傾向に合わせて、問題を大幅に入れかえた。すべて良問を厳選している。さらには小論文等のストックになるように、一つひとつ問題文の内容を吟味した。論理的読解、論理的解法に合わせて、知的好奇心を刺激する内容となっている。
- ②旧レベル別問題集と比べても、解説に倍以上のページを割き、より論理的で、丁寧な解説を心がけた。どの問題文、設問でも、だれでも理解ができて、しかも、一貫した読み方、解き方が身につくように工夫してある。
- ③別売ではあるが、すべての音声講義を収録した。50分程度×10回の講義で、約1500円で購入できる。塾の自習教材などに活用して欲しい。

私教育最前線

なぜ国語ができないのか



どの塾でも国語力を伸ばすことに苦勞している。現代文の教え方も分からず、しかも、問題を明快に解説できる力量を持った講師などそういるものではないのである。その結果、英語、数学などに力を入れがちである。しかし、国語

力を確実に伸ばすことができる塾があれば、それだけで他の塾を圧倒することが可能である。

では、なぜ勉強しても、国語力が身につかないのか?

その理由は大きく二つある。

①論理的な読み方を知らない

多くの子どもたちは文章を漠然と読み、その情報を頭の中で整理できていない。しかも、それを無意識のうちに主観を入れて解釈する。選択肢があれば何となく得点し、記述式問題ならば文中の言葉をつなげて答案を作成し、部分点を獲得するので、自分が文章を読めていない自覚が持てない。

講師も再現性のない授業しかできない。その結果、練習量に見合う学力を養成することができない。

②初見の文章を読む練習量の圧倒的不足

現代文は、読解力、思考力、記述力、言語処理能力などがすべての科目の土台となる力である。これらを養成するには、論理的な読み方、解き方を習得するだけでは不十分である。なぜなら、現代文とは時間内に初見の文章を読み、設問に答えていかなければならないので、一定量の練習量が必要だからである。ところが、子どもたちの多くは学校の授業などで教えられて初めて理解するのであって、初めて見る文章を自力で理解する練習が圧倒的に不足しているのである。

ましてや漫画、アニメ、ゲーム、YouTubeなどに慣れ親しみ、活字に触れる機会をあまり持たない今の子どもたちである。

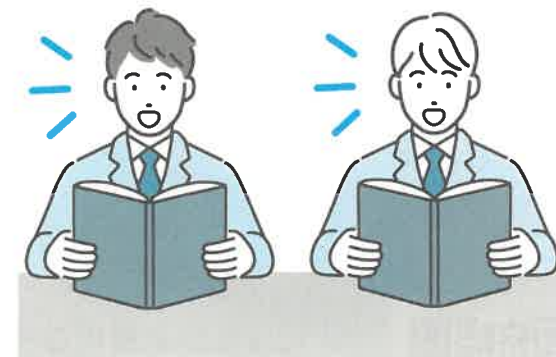
私教育最前線

「音声講義」の活用

多くの塾では国語を教える講師が獲得できないである。中途半端な授業を設置するよりも、「出口式音声講義」を活用したらいかがだろうか。

国語の講義は動画授業よりも、音声の講義の方が効果的である。目はテキストに集中させ、耳で講義を聴く。空いた手で傍線を引き、メモをとる、こうしたスタイルがもっとも効果的なのである。

講義を聴くことにより、問題集を最後までより終えることができる。そして、理解した後、解説書を読むことで、活字を通してもう一度頭の中で整理するのである。



水王舎 03-6304-0201

私教育 最前線

本誌バックナンバー
はコチラから!



教員の働き方 改革を考える



こばやし しょう
小林 尚

株式会社キャストダイス(CASTDICE Inc.) 代表取締役
個別指導塾CASTDICE 塾長

埼玉県出身。私立開成高等学校、東京大学法学部第1類卒業。大学在学中は大手予備校に勤務し、東大・医学部をはじめ多数の難関大合格者を輩出する。また、新規校舎立ち上げに参画し、各種経営指標で全国1位を連続で獲得した。卒業後は経営コンサルティング会社の戦略部門を経て株式会社キャストダイスを設立。新規事業開発、人材・組織変革を専門に3度のプロジェクト表彰を受賞する他、人材関連企業を経営する等、活躍のフィールドは多岐にわたる。近年ではYouTuberとして、受験・キャリアに関する動画を配信中。開成高校弁論部・コンサルティングで培ったロジカルな指導力を武器に、大学や教育機関での講義・講演・セミナーを実施している。「開成流ロジカル勉強法」(クロスメディア・パブリッシング刊)



今回は学校教員の労働環境や教員の働き方を考えていきたいと思います。

代表的な教員の仕事は授業であることは事実ですが、授業以外にも生徒の生活指導、部活動顧問、各種会議、授業準備や学校行事の運営もあり、多岐にわたります。生徒に何かトラブルが起きれば学校に連絡が舞い込み、担当教員が対応することもあります。

私が学校に通っていた頃を振り返っても、学校の先生は色々と仕事が多く非常に忙しくしている印象がありました。現在でもそれは変わらないどころか、様々なニーズやトラブルが出てきて、特に低学年においては以前よりもいっそう忙しくなっていると思います。このような教員の非常に忙しい状況は改善されているとは言い難い状況が続いています。

私教育最前線

部活動

教員の大変さの一つとして、部活動の顧問や指導があります。学校がある平日も遅くまで指導するだけではなく、休日も部活動の指導や試合・大会への参加をしないといけない場合があります。そうなると、教員の就業時間は非常に長くなり、休みも減っていきます。

こうした問題を改善するために、国は公立中学校の部活動では2025年度までに教員が顧問を担当するという状況を変え、地域のスポーツクラブなどに部活動の指導を委任する方針を固めています。

部活動の顧問を担当するにあたり、ご自身が経験した部活動もあるかとは思いますが、必ずしもそうではない場合もありますし、専門の人に比べて教えられることが少なかったり、リスク管理の面で目が行き届かなかったりすることも考えられます。スポーツであれば、顧問の先生が一からそのスポーツを勉強して教えるよりは、既に指導経験があるスポーツクラブなどに委任する方が教員の負担を減らすことができますし、指導を受ける生徒からしても、専門のコーチから教わる方が怪我やリスク管理の点でも行き届いた指導を受けられるのではないのでしょうか。

確かに部活動には生活指導的な一面もあり、部活動を通じて生徒の理解が深まったり、教員との信頼関係が構築できたりすることは事実です。しかし、その部分を重視したいがために教員の生活を犠牲にしているようでは、教育自体が成り立たなくなります。教員が負担しなくても良い部分は負担しないようにすることが大切です。

私教育最前線

放課後の勤務(残業)

上述のように、部活動に関しては(実現性はともかく)改善の方針が立っていますが、残業に関してはまだまだ改善の目的が立っていないというのが実情です。

まずは、教員の勤務時間を確認しましょう。地方公務員法第58条では、休憩時間を除外し労働時間は週40時間を超えないことが定められており、このルール自体は民間企業と比べてもごく一般的なものです。

しかし、これを現実的な学校運営と重ね合わせると

綻びが出てきます。学校の登校時間は朝の8時から8時半くらいでしょうから、教員の出勤時間は遅くとも7時半から8時くらいと考えられます。この状況で授業をこなして「週40時間」「1日8時間」に就業時間を収めようとする、生徒の下校後から夕方の5時までにすべての業務を終わらせる必要があります。もちろん空き時間もあるかもしれませんが、それを加味しても放課後の1時間半の間に仕事を終える必要があり、本来の勤務時間を実現するのはやはり困難と言えます。

また、残業代の問題もあります。給特法(1971年制定の公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法)によれば、残業代の長短に関係なく教職調整額として給料の4%分が支払われます。

しかし、教員の残業全てに残業代が支払われるわけではありません。残業代の支払い対象は「実習」、「学校行事」、「職員会議」、「非常災害」のみとなります。そのため、残業扱いとなる業務は非常に限定的です。給特法により、実質的に教員は定額働かせ放題とも言える状況になっています。

この状況に対しては、給特法の対象範囲を拡大することはもちろんですが、教員の負担を削減する必要があるでしょう。私としては、近い将来、映像授業の使用や教科指導と生活指導の教員の区別などに迫られるのではないかと考えています。

私教育最前線

教員不足問題

月の残業時間にかかわらず、給与の4%分しか残業代が支給されないということは、極端に言ってしまうと教員として働くことはサービス残業をして当たり前の職場に勤務することと同義です。勿論、このような状況で裁判となったこともありますが、給特法を理由に、教員側の請求が認められたケースはありません。

このような、教員という職業はブラックであるというイメージは、教員の成り手の減少に繋がります。文部科学省が発表した『「教師不足」に関する実態調査』によると、2021年5月時点での公立の小中高特別支援学校で不足している教師は2065人になりました。これはあくまで公立の小中高特別支援学校の例ですが、その他の学校種別でも長期的にみて教員の採用倍率は低下しており、応募者の質的低下を議論する以前に「人数の確保」が論点とならざるを得ない状況です。

教員不足がこのまま続けば、実際に学校で生徒を教えられる教員がいなくなります。そうならないためにも、教員の労働環境の改善が大事ですが、これは単に残業代の支払い対象を拡大することにとどまらず、仕事とプライベートのバランスを考慮して労働環境そのものを改善すべきです。労働環境と賃金問題の改善を通して、教職を魅力のある職場へと早急に改善する必要があります。

また、教員の仕事が年々増加していく中で、仕事の量自体は減らないという状況も続いています。小学校では以前より英語の必修化も始まりました。都立高校入試では英語のスピーキングテストが導入され、大学受験では情報科目が共通テストに導入されることが決定しており、波紋を呼んでいます。

様々な問題が発生してそれに対応するために、仕事が増えるだけでは現場が崩壊することは免れないでしょう。事実上、長年改善の兆しが見えない教育現場の課題に、今こそ国が向き合い、動くべきタイミングではないでしょうか。

私教育 最前線

本誌バックナンバー
はコチラから!



実務教育学への招待(7)



かわやま りゆじ
川山 竜二

学校法人先端教育機構
社会構想大学院大学 学監・実務教育研究科長
文部科学省
持続的な産学共同人材育成システム構築事業委員
実務家教員COE 事業責任者

専門学校から予備校、大学院まで様々な現場にて教鞭を執る実績を持つ。現在は、「社会動向と知の関係性」から専門職大学、実務家教員養成の制度設計に関する研究と助言も多数行っている。そのなかで、リカレント教育やラーニング・ソサエティ、知識3.0を提唱。現在の関心のキーワードは、実践の理論・高度専門職業人。

私教育最前線 社会発展の基盤としての知識

これまで主張してきたように、筆者はこれからの社会において、知識が重要な役割を果たす「知識社会」になると考えている。そうした知識社会のなかでは、知識の創造、普及、活用という知のトライアングルをいかに回していくのが課題となる。

知識の創造とは、自らの知識、経験、情報を組み合わせて課題解決をする知識を作り出すことを指している。ここで誤解のないように付言しておく、ここでいう知識は全ての領域の知識を指している。学術的知識でさえ、いまだにわかっていないもの(未知)を既知のものに変えるという課題を解決しているのである。

知識は、創造するだけでは知識とならない。自分が知っているだけでは知識としては用をなさない。知識を他者と共有し、理解し納得してもらうことが必要である。つまり先の言葉で言えば、知識の普及というフェイズである。

知識を創造して、他者と共有すれば知識として機能するだろうか。ここで知識の活用というフェイズが登場する。知識が他者と共有されれば、その知識を実際に使ってそれぞれの課題を解決しなければならない。知識は課題を解決してこそ役立つのである。前回に言及したメタ知識もここで生きてくる。それぞれの知識をどのようにそれぞれの状況に適応させることができるかという観点も必要になってくる。

知識の活用までいくと、課題が解決される。そうすると社会は新たなフェイズに移行する。社会が変化することで、別の課題が生じ、また再び新たな知識を創造する契機を作り出していく。このように、知のトライアングルは絶えず回り続けるのである。

私たちが迎えることになる社会では、以上のような社会発展の基盤として知のトライアングルを回せる人材を育成する必要がある。

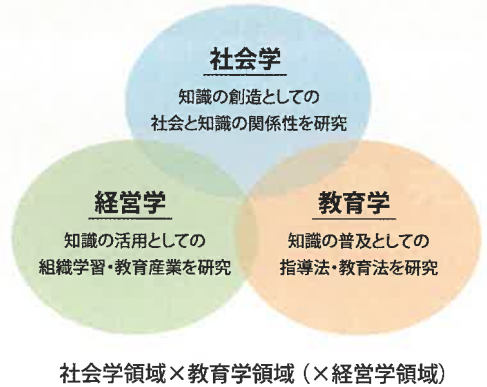


私教育最前線 知のトライアングルを支える領域

こうした人材を育成する土台となるのが、実務教育学ではないかと筆者は考えている。実務教育学は、教育学とついでに純粋な教育学ではなく、さまざまな知的領域を含んだ学際領域の方法論である(筆者自身は、実務教育学の理論的土台は知識社会学であると考えている)。

先に言及した知のトライアングルと重ねて、説明していこう。知識の創造でキーになるのは、ひろい意味で社会学であると考えている。社会において課題になっていることを指定するためには、社会を観察する眼も必要である。知識が社会の中で影響を受けることも含めると、社会と知識の関係性をさまざまな観点から理解しておくことが必要となる。知識と社会を見る眼を養いつつも、作られた知識を社会に普及させていくことが必要である。伝統的に人に伝えるということを探求してきたのは、教育学である。学校教育を超えて教育学の指導法や教育方法は、自らが作り出した知識を普及させる手助けとなる。今日の教育学は、未成年だけを対象としているわけではなく、アンドロロジーという成人教育をも研究対象としている。

そして、知識の活用としては経営学の手法が役立つであろうと筆者は考えている。たとえば、知識の創造と聞いて一番最初に思い浮かぶのはナレッジマネジメントであろう。ナレッジマネジメントは、経営学の文脈のなかで発展してきた経緯がある。また、組織学習などの手法も同様である。これらのことを考えると経営学は、知識を使って成果を出す手法を考える領域であるとも考えることができる。




私塾・学校向け 総合型選抜・学校推薦型選抜の生徒さんに販売いただけるプラン

総合型選抜対策パッケージ

- 個別指導** 志望理由書などの書類作成や面接対策といった指導をすべて請け負います。
- 情報連携** 生徒さんの進捗状況を随時共有しながら、指導のサポートをします。
- 学習環境** BYOD 対応でご自宅でも学習可能。必要に応じて端末等をご用意ください。

初期費用 0 円
キャンペーン実施中

お問合せは HP から





生徒の主体性を引き出す「学習する空間づくり」

おおや じゅん
大矢 純
授業学研究所 所長

株式会社授業学研究所代表取締役。1966年岐阜県生まれ、東京都育ち。数学の授業や教員育成などの経験をもとに、生徒のやる気を引き出すノウハウを体系化した授業学を提唱。2009年に授業学研究所を設立し、未来の日本を担う子どもたちのために、授業学の確立と普及を行っている。全国の教育委員会、日本私学教育研究所、東京・神奈川・兵庫などの私立中高協会や連合会をはじめ、各地の学校で研修や講演、授業改善・合格実績向上・人事考課コンサルティングなどを行うなど、活躍の幅を広げている。超党派の国会議員と民間有識者で構成される教育立国推進協議会のメンバーとしても活動している。

新たな年になりました。改めて今回からしばらくの間、新任の先生にお伝えいただいたり渡して読んでいただいたりできる授業学の基礎を数回に分けてお伝えします。

鉄は熱いうちに打て！是非将来の授業力向上のためにご利用いただければ幸いです。

さて、授業において分かりやすくあるいは整然と順序立てて説明をすることはとても重要です。また、児童生徒のレベルに合った適切な問題を選択し、分かった内容を「できる」というレベルまで引き上げることも重要です。

一方、素晴らしい説明で理解させて適切な問題を解かせることだけで、児童生徒の学力が伸びるわけではありません。児童生徒が「自ら学びたい、身につけたい、レベルアップしたい」と思わなければ学力は伸びず、授業の成功とは言えないのではないのでしょうか。そのような観点から言えば、児童生徒のやる気を引き出し主体的に学ぶ状況をつくることも授業においてとても大切なことだと言えます。児童生徒と教師の関係性が良く、教師が個性を活かし熱意が伝わると、児童生徒のやる気を引き出し授業効果は最大化されます。そのための理想的な環境のつくりかたを授業学では『学習する空間づくり』と呼び、最も基礎的なスキルに位置づけています。

授業学はこの『学習する空間づくり』を根幹に、授業に関する教師のスキルを体系化し共有することで、各自の個性を最大限活かした授業づくりをしていくものです。

私教育最前線 「学習する空間づくり」の重要性

みなさんが受けてきた授業で最も印象的な授業は、どんな授業でしたか？

多くの場合、分かりやすく説明してくれたということだけではないことがわかるはず。その教科はあまり好きではなかったけれど、良い先生との出会いで好きになった。その授業の時はクラスに一体感があってみんなやる気になっていた。その先生のお陰で今がある。などなど、意外にも分かりやすく説明してくれたこととは無関係なことが多いのではないのでしょうか？

例えば、ある学校に2年1組の教室があったとします。

そこには2年1組の生徒がいます。そして、数学の時間は数学の教師が、英語の時間は英語の教師がやってきて授業を行います。数学の授業の時の教室の空気感と英語の授業の時の教室の空気感は、まるで違う状況になります。

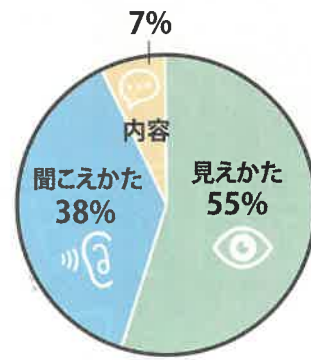
物理的な条件を考えれば、同じ場所に同じ生徒がいます。異なるのは唯一、教師だけです。つまり、教師が変わるだけで教室の空気感はまるで異なるのです。そして、その空気感によって児童生徒の「やる気」が随分変わるのです。ということは、教師の立ち居振る舞いによって、児童生徒の授業に対するやる気や主体性が随分変わるといえるのです。

どうやって最適な教室の空気感をつくるか、これを授業学では『学習する空間づくり』と呼んでいます。

授業の内容はもちろん大切ですが、それと同じくらい『学習する空間づくり』すなわち教師の立ち居振る舞いも大切なのです。

アルバート・メラビアン¹の法則と呼ばれるものがあります。その解釈には諸説あるので、そのことについて議論するつもりはありませんが、大いに参考になります。人が他人から受ける印象のうち55%は視覚で認識する「見えかた」、

38%は聴覚で認識する「聞こえかた」、そして残りの7%が話の内容というものです。



教師の見えかたには、静的なもの²と動的なもの³があります。

静的なものは、立ち位置・体の向き・服装・立ちかた・顔つき・髪型・目つきなどです。動的なものは、歩きかた・体の動き・手振り・表情の変化・視線の使いかたなどです。

教師の聞こえかたには、声質と声の表情⁴があります。

声質とは、通りやすさ・声の密度などの要素です。声の表情とは、大きさ・高さ・速さ・間の4つの要素から成り立っています。

印象の93%を占めるこれらの非言語コミュニケーションが児童生徒に与える影響は意外に大きいことがわかったと思います。ただし、この表現の方法は一律に決まったものではなく、教師一人ひとりの個性が生かされていることが大切です。そのためには自分の個性、とりわけ強みを客観的に把握して恥ずかしがらずに表現する必要があります。

私教育最前線 授業の成果は内容だけではない

当然ながら、授業の内容はとても大切です。内容の幅を広げて深めるのは簡単ではありません。多くの経験が必要なので時間もかかります。したがって、30年やってきたベテラン教師に1年目の新人教師が内容で勝てるかといえば、残念ながら勝てません。もちろん、同じように30年やったら、もっともっと幅も深みもあるものにしようという気持ちで日々研究し続けることはとても大切です。

さて、内容で勝てなければ授業の成果をあげることはできないのでしょうか？児童生徒のために、新人教師でもベテラン教師と同等あるいはそれ以上の成果を出す手はないのでしょうか？

実はここが教師の仕事の面白いところ。1年目の新人教師だろうが30年目のベテラン教師だろうが、同じ土俵の上で戦って1年目の新人教師が勝つこともあるのです。

社会人セミナーのように、参加者が皆学ぼうという気持ちで授業に臨んでいるならともかく、残念ながら授業はそのような前提ではありません。どんなに素晴らしい内容でも非言語コミュニケーションがうまくなければ伝わりません。

つまり

$$\text{伝わる情報量} = \text{内容} \times \text{表現力}$$

ということになるのです。

内容が心もとなくとも、それをカバーして余る表現力があれば結果的に伝わる情報量は多くなります。さらに、児童生徒の心が動けばやる気と主体性が引き出され、自ら主体的に学ぶので確かな学力が身につきます。こうすれば新人教師でもベテラン教師を授業での成果が出せるのです。

注目! 教育コーチング

成長ブレーキを外す



おおむら しんすけ
大村 伸介 (株)成基総研
コーチング室 室長

集団指導塾を経て、2004年株式会社成基入社。
教室長、エリアマネージャー、本部長補佐、副本部長を歴任。
現在は、教育コーチング、パパママコーチングセミナーの
トップ講師として教職員研修、保護者講演会等で全国を飛び回る。
日本青少年育成協会認定マスター教育コーチ・S級認定トレーナー、主席研究員

本誌バックナンバーは
コチラから!



あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく
お願いします。と言っはみたものの、この原稿を書い
ているのは2022年11月ですので、正直何の実感も湧
いていませんが(笑)。

それにしても2022年は一昨年にもまして精力的に
動きました。北は北海道、南は鹿児島まで、企業研修、教
職員研修を中心に、保護者向け講演会、生徒向け講演会
もご依頼いただき、この1年でおよそ3,000名の方が
教育コーチングの学びを深められました。2023年度も
この私教育新聞をお読みになられ、興味を持たれた塾
や学校、そして私学連盟などで、すでにいくつもの研修・
講演が決まっており、それは、企業や公教育でも同様で
す。本当にありがたいことですし、何よりも学びを深めら
れる先生方の姿勢に心から敬意を表しています。2023
年度も皆様の期待にお応えしてまいります!

当たらなかつたらどうしよう?

11月、鹿児島県の高校で、生徒向けの講演会を行いま
した。2年連続となります。生徒向けの講演会では、主に
生徒自身の認知バイアスへの気づきをメインにお話しす
ることが多いのですが、そこでの一節。

「おうちの方が宝くじなんて買ったりすることもあるかも
しれないけど、1等前後賞合わせて10億円!その時の会
話ってどんなだろう?」

生徒達はあたかも自分が購入者であるかのように思
い思いに話をしています。なかには、あれが欲しいだの、
ここに旅行に行きたいだの話している生徒も少なくあり
ません。

「そうだよね、「当たったらどうしよう」だよね、この中で
「当たらなかつたらどうしよう」って観点の会話が出たグ
ループある?」

みんな笑いながら手を挙げません。

「じゃあ、テスト前とかの会話ってどんな感じ?例えば目
標点が90点だったとしたら?」

先ほどのワイワイガヤガヤはなくなり、

「ええ、取れなかつたらどうしよう?とか?」

「もっと勉強、前からやっといいたらよかった」

「90点って取れるわけないよね…」

といった会話がほとんどでした。



「いやあ、さっきのパワーがどっかいつちゃったけど
(笑)。さっき、グループで起こった会話と、今グループで
起こった会話、どんな違いがあるかな?そして話してい
たり聴いたりする時の気持ちにどんな違いがある
かな?」

また話し合ってもらいます。

「さっきの宝くじのときは前向きな会話だったけど、テスト
の時はそうでもなくて後ろ向きの会話がほとんどでした」
「宝くじの時は楽しかったけど、テストの時はなんか暗い
気持ちになってきました」

「テストの時は、「90点なんて無理!」っていう前提で
しゃべっていたように思います」

みんな、観察が進んできています。

「そうね、宝くじの時は『当たったらどうしよう?』からの
会話がなかったね。でも、テストの時は『目標点取れな
かつたらどうしよう?』が多かった。どっちの視点も持つ
てるんだけど、テストの時、「目標点取れたらどうしよ
う?」って思ったことある?」

手が挙がりません。

「なぜなんだろうね?グループで話し合ってみて」

みんな真剣に考えてくれます。しかし、そんな質問は生
まれて初めてされたわけですから、話し合いはなかなか
進まないようです。そんな中、何人かに聞いてみました。

「初めからあきらめてる…とか」

「自分のできる範囲とか点数取れる範囲を考えてしまっ
ている感じだからです」

なかには、

「大風呂敷を広げたら、後からお母さんとか先生とかに
怒られるから」なんていうのもありました。

「できる」から「したい」へ

この話は講演会の後半でしています。私たちは、自分
の「したい」をあきらめて、「できる」ことをしてしまいが

ちです。それは、負担を少なくしたかったり、あきらめて
いたり、自分が他者から責められるのを回避していた
り、と様々な目的が伴っているわけですが、なかなかこ
の「したい」に光を当てることを自分も周りもしていない
わけです。

「どんな成績が取れる?」と「どんな成績を取りたい?」
そして、

「どんな学校にいける?」と「どんな学校に行きたい?」
は根本的に違うわけです。

『自分で自分の人生の舵を執る』

これがこの講演会のテーマでした。そのあたりを生徒は
存分に感じてくれたようで、講演会終了後のアンケート
では、こんな感想を書いてくれました。

日本の、世界の平和に改めて貢献したいと、
強く思った。そのために、勉強も部活も
様々なことに大変でも挑戦して楽しんでいけそうです。
そして、自分を愛し、人を愛せる基盤を高校生のうちから
作ろうと決意できたきっかけになった。

高校生になってから、周りの凄さに圧倒されていつしか
自分で自分を制御していたかもしれないと思った。
中学まではなんでも高みを目指して
色々なことに挑戦し自分の世界を広げていたが、
高校では勉強を言い訳に様々なチャンスを見送っていた。
人見知りだからと交友も自分から制限していた。
今後は自分は何んでもやれはかできると鼓舞し、
自分から交友関係を広げるきっかけをつくらせたり、
ボランティアに参加する勇気を出して人生を
活気あるものにする努力をし、行きたい大学に
受かるような日々を送りたい。

「人は育とうとする生き物」です。しかし、いろいろな
経験が、知恵にもなっていますが、成長ブレーキにも
なっています。そんな成長ブレーキを外す第一歩をおよ
そ300名の生徒は踏み出しました。

奥が深い教育コーチング、ぜひ、教職員一丸となって、
新たなコミュニケーションの一步を踏み出しましょう。

Choice!

したい

coaching@mail.seiki.co.jp

林 真理子

学校法人 日本大学 理事長

付属校の意見が 吸い上げられるようになった。

●柳澤「理事長が理事会で皆さんの意見を吸い上げてくださっていると感じています」

●林「ありがとうございます。皆さんすごく活発に意見を言うので、私はお聞きして、ありがたいなと思っています。ただ、皆さんからの意見が活発過ぎて“長過ぎる”という指摘もいただいているので、最近では説明者たちと事前リハーサルをして、できる限り説明を短くしています」

●柳澤「ありがとうございます」

●林「今回、高校から初めて理事になられたということですが、これまで付属校の意見は吸い上げられていたのでしょうか？」

●柳澤「あまりなかったですね。大学で決められたことに従うという形で動いていました。高校と大学って事情が違いますが、現状や意見を聴いていただけてありがたいと思っています」

●林「必ずしも豊山女子に限りませんが、付属校は今、難しい立ち位置にありますよね。進学校化も必要だし、日大に優秀な生徒を送り出す役割もあります。その狭間で大変じゃないですか？」

●柳澤「そうですね。進学先が日本大学だけとなると受験者の層が限られてしまうので、他大学への進学実績も必要です。私が校長に就任する前も悪くはなかったですが、やはり一定化してしまって新鮮味のない時代があったので、私の代になって新たな取り組みをしています。今の保護者の皆様には私たちの教育内容をすごく理解していただけて、それが評価されつつあると思います」

●林「校長に就任されて何年目ですか？」

●柳澤「7年目です」

●林「それまでのキャリアは？」

●柳澤「男子校の日大豊山に32年間おりました」

●林「その頃から先生には「女子校に勤務したらこうしたい」といったお考えがあったのですか？」

●柳澤「私の娘が豊山女子に通っていましたが、「もっとこういう風にすればいいの」ってアイデアはいくつかありましたが、外から言うわけにもいきません」

●林「それでは、就任後それを実現してこられたのですか？」

●柳澤「はい。校長に就任して、当時思っていたアイデアを次から次へと行動に移しています」

●林「豊山女子が素晴らしい生徒を日大に送り込んでくれているって話は、あちこちで耳にしますよ」

●柳澤「ありがとうございます」

●林「特に理系の女子ですね」

●柳澤「50年の歴史を持つ「理数Sクラス」というコースがあるんです。保護者様や生徒たちにとって「リケジョ」は関心が高いですね」

卒業生の証言から明るみに なった日大の課題は“トイレ”?!

●林「理工学部や医学、歯学部に行った際に「もっと理系女子の勧誘を日本大学でやってほしい」という声が上がりますよ」

●柳澤「はい。日大豊山女子でも『理数Sクラス』があるので、理数が得意な子、関心のある子に来て欲しいと思って、今年から算数1科入試を導入しています。効果が出ればと期待しています」

●林「そうですね。私は日本大学における女子の数をもっと増やしたいと思っているんです。やっぱり女子学生に人気があると大学人気も高まりますから。そのためにはもっと魅力的な場所にしなければいけない。ですから校舎がちょっと古かったりするのも直さないとイケないですね」

●柳澤「そうですね。お金もかかるし大変なことなんです。校舎をつくる際には、もっと女性の目線を入れていただけたらいいと思います。たぶん、50年くらい前に校舎を建てた頃って、ほとんど男性ばかりの大学だったので、男性目線でつくったキャンパスだと思うんです。今は女性も大学院まで進む時代になってきましたし、理系の女子も入ってきやすい環境づくりというの必要だと思います」

●林「環境づくりと言えば、たとえばある学部に行った時も、和式のトイレがいっぱいあってちょっとビックリしてしまっただけです」

●柳澤「そうですね」

●林「誰がこれ考えるんだろ?って」

●柳澤「私が教頭として日大豊山(男子校)にいた時に、新しい校舎を建てることになって。全部の階に女子トイレを設置すると決めた際に「必ず和式トイレを入れてください」って意見が出たんです。私は「それは間違いだ」と(笑)。絶対に必要ないので全部洋式にしたことがありました。男性だけで決めると、どこかで何か思い込んだことがそのまま動いてしまうことがあります」

●林「そうですね。この前、評議員会でもご注意を受けました。講堂のトイレが1列全部和式のままでした。会議のあとでその怒った方から「ああいうふうにご注意と議事録に残るからいいでしょ」って教えていただいて、「ああ、そこまで考えていただいたんだ」って、ありがたいなと思いました」

●柳澤「豊山女子から日大に進んだ生徒から「ここが嫌だった」って声を聞く中で、トイレの話は実はよく聞きます(笑)。ある学部の学生でトイレに入れなくて学校に行けないって」

●林「えーっ?」

●柳澤「という声が出るくらいトイレが汚かったんです。やっぱりトイレって大事ですよ」

●林「すごく大事!(笑)。トイレって文化の基本ですものね」

女性・保護者の視 日大ブランドを再

2022年7月。日本大学会館で記者会見が開かれ、日本大学の理事長に作家の林真理子氏が就任したと発表された。同時に理事会のメンバーも刷新され、1899年の創立以来1人もいなかった女性の理事が22人の理事(7月15日に24人に増員)のうち8人を占めることになった。その中の一人こそ、日本大学豊山女子の柳澤一恵校長だった。

数々の不祥事によって傷ついた日大ブランドの立て直しと健全化のために立ち上がった二人がこの対談を通じて再確認したのは、互いの「女性の視点」「保護者の経験」を最大限活用すべきということ。そして、「日大の強み」についてだった。

日大付属校唯一の女子校【日大豊山女子高等学校・中学校】を率いる柳澤校長が、日本大学の理事

日本大学豊山女子高等学校・中学校

〒174-0064 東京都板橋区中台

学校法人 日本大学 理事
日本大学豊山女子高等学校・中学校 校長

柳澤 一恵



子育ての経験を持つ二人の 母親としての教育論。

- 柳澤「豊山女子の進学イベント『進路ガイダンス』では、各学部の先生方に来ていただいて説明していただくんですが、うちの学校の卒業生にも来てもらって、先輩たちから『この学科はこうだよ』って話を聞くんですね。やっぱり全然知らない偉い先生の話よりも、2年前に豊山女子に通っていた先輩たちの話は、聞こうとしますね。質問もしやすいし、卒業生も思い入れがありますからね」
- 林「ああ、そうですか。先輩学生からは、あまりネガティブな話はないですか」
- 柳澤「ないですね。他にもうちの学校でお世話になっている女性の弁護士で、日大藤沢高校から日大に行かれた方がいるんですが、そういう方にも、うちの生徒との接点を増やして『ああ、こういう先輩がいるんだ』って弁護士を目指す女子が少しでも増えたらという気持ちもあって、講演をしていただいたりもしています」
- 林「それは素晴らしい取り組みです。やはり憧れの先輩を見つけるってすごく大切だから」
- 柳澤「身近に感じられるって、とても大事だと思うんですよね。いつか本校の卒業生から弁護士が出る良いなと思います」
- 林「ところで校長は、母親としてお嬢様にはどのような教育をしようと思っていしたんですか？」
- 柳澤「私自身、日大二高等学校から日大に進学して、卒業後も教師として日大三島高等学校で3年、日大豊山に32年というキャリアで、日大の良さをわかっていたから、娘にも日大に進んでもらいたくて、豊山女子に行かせました」
- 林「私は、地方出身の上、バブルも引きずり『附属校からエスカレーターで大学に上がる東京のお嬢さん』に憧れる気持ちがあって、娘を幼稚園から附属校に入れたのですが、途中から世の中の中学受験熱が高まって、きちんと勉強をさせなきゃって風潮が変わったんですね。『そうか。女子も勉強させないとダメなのか』と思った時にはちょっと遅かったですね」
- 柳澤「私、三人兄弟の末っ子で、長男、長女は親の期待を一身に背負って育ちましたが、私は三番目なのであまり期待されず(笑)。でも、逆にそれくらいの方が私としては心地よく自分のやりたいようにやれて、勉強が必要だなと思えばやる感じでしたから、私も娘に期待しなかった」
- 林「私も期待しなかったんですけど、まさかここまで勉強しないとは思わなかった(笑)。私はね、勉強しないならしない方がいいから、本を読んだり、お芝居や音楽だとか、私が与えられる教養や文化を楽しんでくれればとも思ったんですが、それもまったく興味を示さなかったですね。まあ、ここで愚痴でもしょうがないんですが(笑)」
- 柳澤「私は、主人も教員だったので、娘も教員になるのかな?と思ったんですが、『教師にだけはなりたくない』って言われました(笑)」

不祥事を乗り越える日大の 強みは、“日大ファミリー”の絆。

- 林「不祥事ではご迷惑をおかけしましたが、その時は志願者が減りましたか」
- 柳澤「ちょっと減りました。“タックル”もそうでした。昨年は思っていたほどではなかったですが、受験生は女の子なので、トラブルのあるところは避けたい気持ちが働いてしょうね」
- 林「それでも校長先生が女性ってということは、保護者の方にとっては安心感があるんじゃないですか」
- 柳澤「そうですね。しかも私自身が豊山女子に通う生徒の保護者でもあったので、やっぱり私しか発信できないことがありますからね」
- 林「実際に生徒の親だったという事実は強いですね。私、理事長になってからここ(本部)にいるんですが、この本部にいる人たちは特に母校愛が強くてビックリするんです。私も段々染まってきて本当にいい学校だなと。どうして世間はこういうところを知ってくれないんだろうって、口惜しくてもどかしい気持ちになります」
- 柳澤「日本大学の良さって、そういった人情味というか、人との繋がりを大事にするところじゃないかなと思います。先輩にお世話になったり、後輩の面倒を見るなどして、繋がっていく側面が日本大学にはすごくあると思います」
- 林「なにしろOB・OGが約123万人いますから。お亡くなりになられた方を除いて、名簿にあるだけで約58万人。明治時代から残していただいた足跡がありますからね。それは強みですよ」
- 柳澤「そうですね。強いと思います」
- 林「先生のところも、日大出身者は多いんですか」
- 柳澤「はい、多いですね。ここにいる(取材を見守る関係者たちを指して)人々も日大出身で、日大二高と鶴ヶ丘高校、あちらにいらっしゃる方も櫻丘です。こうやってパッと集まった時でも、なぜか“日大ファミリー”が入っているんですよ(笑)」
- 林「えっ、そうなんですか。もっと多くの方がこの“ファミリー”の輪の中に入ってきてもらいたいですね」
- 柳澤「本当にそうですね。社会に出れば実感できると思いますが、どの業界、どの人脈にも、“日大ファミリー”がいることこそ、日大の最大の強みですよ」
- 林「こうやって挙げていくと日大の良いところはたくさんあって、素晴らしい校長先生がトップで生徒を見守っていただいて、聡明な生徒を送り出してくださる。こうした付属校があることも日大の強みだと思います。こんなに付属校が多いところありませんしね。本当に付属校あつての日大です。愛校心があって優秀な生徒をこれからも豊山女子から送っていただけることを期待しています」

点で 生させる。



女性だけの 日本大学“理事会”対談

に就任。まさにそれは、豊山女子が目指す『社会の第一線で活躍できる女性』の育成の体現だ。





映像授業「を」学べ。鉄人の中の鉄人香川が吠える。

基本大全数学IAで数検準2級チャレンジ!しました(前編)

かがわ あきら
香川 亮 学びエイド
数学科認定鉄人講師

数学科講師・ラジオパーソナリティ。進学情報誌「Rikejo」(講談社)の連載も手掛ける。「学びエイド」数学科認定鉄人講師。鹿児島から埼玉まで全国を駆け回る。指導対象は中学生から社会人まで、レベルも東大志望者向けの講義から社会人向けの学び直しや、数学の導入の講義、ビジネス数学検定対策等と幅広い。「どこから手を付けるのか?」「どうしてそう考えるのか?」といった、解き手目線の講義はレベル、年代を問わず受講生の圧倒的な支持を得ている。また、イメージを大切に講義、他を圧倒する丁寧な板書は学びエイドで体感できる。

私の息子が、学校の授業以外にも数学を学びたいということで、私の居住地である横須賀で実施されている「チャレンジアップ支援事業(検定料助成)」制度を利用して数検を受けてみるか!ということになりました。この制度は各種検定(英検・漢検・数検)の可否に関わらず検定料の全額を助成するというものです。

ならば!ということで応募しようと詳細を調べてみると、少々厄介な条件があることに気が付きました。それが

「準2級以上の検定に限る」

というものです。息子は今年中学1年生。中学生になってまだ半年。そして準2級の検定内容というものが

「高校1年程度の学習内容50%、中学3年程度の学習内容が40%」

です。そして、さらに検定日は10月30日。受験を決めたのが9月1日。残り2か月。

さすがに正負の数を学んだばかりの段階の中学1年生にはちょっと・・・しかも、自分もずっと面倒見られるわけでもないの、なかなか厳しいかな・・・と思ったのですが息子が思いのほか乗り気(級とかを手にするというミッションもって、子どもは結構ハマる気がします)なのと、もし合格したならば外食に連れて行ってもらえるという「鼻先に吊るされたニンジン」のためにチャレンジしてみることにしました。



① まず手を付けることといえば

これはかなり悩みました。しかも中3内容と高1内容ではどう考えても学ぶための前提知識が足らなすぎます。そこで行うのは「相手の詳細な分析」

です。過去の検定試験の問題を手に入れて、徹底的に出題内容とその傾向を調べ尽くすことにしました。ですから、正確に言うと「2か月で4年間の学習範囲を終える」ことはしていません。逆に言えば必要なポイントだけを抽出して教えるというギリギリの線を進んで行くことに賭けることにしました。

そのためにも何はともあれ「計算力」が必要でした。特に最初の1週間ぐらいひたすらやらせたのが「正負の計算(ただし、学校で学習済みだったのでほぼ不要でした)」「分数式の扱い」「平方根の扱い」「方程式の解法」でした。とりあえず、「式が立ってしまえば答えは出せる」というレベルにもっていくことができれば何とかなるだろうという算段です。



計算力の向上で心掛けたのは「理屈は後回し、ひたすら演習」でした。幸いなことにランダムに問題を生成するプログラムがあったのでひたすら計算問題を出力しては解かせるということをやらせました(この部分に関してはさすがに付きっきりで実施→採点→返却と解説を行いました)。計算のルール(特に平方根など)は演習メインで行うと、仕組みが分からず暗記に走ってしまうためデメリットも生むことが多いのですが、今回は時間が無いので、演習→理解という流れを、暗記に走らないよう注意しながら進めました。

平方根の計算では、 $\sqrt{8}$ のような形で止めてしまうミスが多かった気がします。また、方程式は2次方程式がメインになるとみて演習を繰り返しましたが、これはかなり苦勞しました。なぜかという、2次不等式になると方程式のようなただの解を求めるのと違い、範囲を求めるためにグラフの理解が伴わないといけなからです。

2次不等式が絡む分野は少ないためにあまり気にせず進めましたが、今思えばこの分野が狙われると

致命的だったかもしれません。

② 検定の特性を理解する(1次対策)

数検は1次と2次の2回に分けてあります(同一日に一気に受験します)。特に、1次の「計算技能検定(解答のみ記述)」は、15問中の正答数で合否が決まります。合否ラインは11問正解とみて、「4題は間違えてもよい」と考えるところから始めました。「2次不等式(理由は前述の通りです)」や「平面幾何(覚える定理が多い)」はあまり気にせず、確実に解ける問題を完璧に解けることにこだわっていききました。2進法や三平方の定理はかなり気を揉んだのですが、2進法に関しては本人の中でじっくりくるものでもあったのか全く問題なくすると身について助かりました。三平方の定理に関しても、特に疑問を抱かずひたすら図に直角三角形を書き込みながら計算していたので、救われた部分も多かったと思います。

検定時間は15問に対して50分、1題当たり3分程度とかなり短く感じますが簡単に解ける問題はすぐ終わりますし、解けない問題は最初から相手にしないので実際はかなり余裕のある感じだったと考えています。それよりも、「検定時間最後まで解き切る集中力」を養う方が中1の息子には必要でした。

計算力を身につけた後は個別分野の学習から2次対策です。

後編に続きます・・・

「基本大全 数学IA Basic編/Core編」は全国の書店・Amazon等で購入できます。

後編も
お楽しみに



子どもたちにデジタルインテリジェンス(DQ)を! 注目のDQ World™で基礎基本を習得

何となく“わかっている”と思っていたことを 確実に理解する

さとえ学園小学校編

DQというのは、いわばIQのデジタル版。インターネット上のリスクを最小化し、チャンスを最大化するために必要な技術的・精神的・社会的スキルの総称である。そのDQを高めるための教育プログラムとして注目を集めているのが「DQ World」だ。今回は、すでに全児童が1人1台端末を所有し、授業はもちろん、家庭学習も含め積極的にICT活用に取り組む埼玉県さいたま市のさとえ学園小学校の例を紹介しよう。



独自の「レベルアップ型ルール」によって向上を図ってきたスキル・モラルをDQ Worldで底上げする

さとえ学園小学校では、GIGAスクール構想に先駆け、2018年7月から全学年およそ500人が1人1台のiPadを所有。独自の「レベルアップ型ルール」によって子どもたちのICTのスキルやモラルの向上に取り組み、成果を上げている。今回、その経緯を振り返るとともに、DQ Worldを導入した目的や期待する効果について、教師によるICTプロジェクトメンバーの中心的役割を担った山中昭岳氏に話を聞いた。

ICTのスキルとモラル両面の向上を目指す 独自の「レベルアップ型ルール」

同校では、授業はもちろん、家庭学習も含めた学びに役立つ道具として、iPadとの上手なつきあい方を身につけることを目指し、1人1台端末スタート時から学校での管理や使用の制限はせず、自宅への持ち帰りも認めている。これに対して反対の声もあったが、保護者向けのワークショップを行い、iPadの初期設定や家庭でのiPadとの付き合い方を一緒に考えてもらうなどして理解を得た。

子どもたちも、児童会のメンバーが主体となって使い方を考え、「iPadは賢くなるための道具だ」というスローガンを作成。滑りだしは順調に思えたが、1カ月ほどでiPadは完全に子どもたちの遊び道具になっていた。

「ある程度は予測していたことですが、教室がゲームセンターかと思うほどの状況で、本来の目的に沿った使い方を身につけるための取り組みが早急に必要だと感じました」と山中氏。

そこで、子どもたちのICTのスキルとモラルが段階的に身につけていけるようなレベル設定ができないかと考え、独自の「レベルアップ型ルール」を策定。2019年4月から運用をスタートした。

「運転免許をヒントに「ゴールド」から「ブルー」「グリーン」「イエロー」「レッド」まで5段階のレベルを設定。「グリーン」からスタートして、スキルやモラルが身につく、レベルアップするとiPadで使える機能や学校の中でできること、自由度が増す。iPadの壁紙の色でそれぞれのレベルがわかるようになっており、定期的実施されるスキルアップテストに合格すると、「壁紙贈呈式」で新たな壁紙が贈られる。

「レベルの進み方は個人差があるので、同じクラスに異なるレベルの児童が混在します。たとえば、ブルーになるとAirDropが使えるようになり、ブルーの児童は、教室で先生がAirDropしたファイルをそのまま受け取れます。グリーンの子はそうした様子を見て、「早くブルーに上がった

「ゲーム要素が強いDQ Worldに対して、夢中になり過ぎることを懸念する声もありますが、そこをコントロールする力を身につけてほしいですね」

さとえ学園小学校
科長補佐 カリキュラムマネージャー
山中 昭岳氏

い」という気持ちになったり、周りの子がどんどんブルーに上がっていくのを見て“自分も早く上がらなければ”と感じたり、ピア・プレッシャーが適度に働き、子どもたちのモチベーションも上がります。レベルアップ型ルールが浸透したことで、学校全体の雰囲気も良くなっています」

使わざるを得ない状況をつくり 教師、保護者のICT力も向上

児童の1人1台端末所持を実施するにあたり、同校では教師と保護者の意識改革にも取り組んだ。まず、事前に全教師にiPadを配布し、情報共有ツールとして「Slack」を導入。すべての情報を集約し、会議の資料も紙を廃止するなどして、2か月ほどで完全にペーパーレス化した。

「苦手意識を持っている人に、いくら“自ら意識を改革して進めてください”と言っても、容易には変わりません。使わざるを得ないシステム、環境をつくり、使うことで利便性に気づいてもらう。行動することで意識を変えていってもらいました」

保護者に対しても同様に、連絡帳をなくし、保護者への通知などもiPadを通じて行い、学校行事の動画や学年便りなどが閲覧できるポータルサイト「さとえチャンネル」を開設。書類による通知は重要なものだけに限定するなど、保護者にとっても端末の利用が不可欠な環境をつくりだした。同時に、iPadの操作などに関する問い合わせにオンラインで対応する保護者向けのHelp Deskを設置し、不安の解消にも努めている。

「先生方の努力はもちろんですが、保護者の方も学校の取り組みを理解し、とても頑張ってくださいしています。初めは“デジタルは苦手”と言っていた保護者も、今ではすっかり慣れた様子で、Help Deskへの問い合わせも数えるほどです。子どもたちだけでなく、保護者のICT力も確実に向上しています」

DQ Worldで学ぶ 8つのデジタル・シティズンシップスキル



3年生以上で「CYOD」を実施 DQ Worldであらためて基礎基本を学ぶ

レベルアップ型ルールが浸透し、同校では、2021年度より3年生以上は「CYOD」(Choose Your Own Device=学校が提示する複数の端末候補の中から自由に選んで使用する)をスタート。今後、さらに子どもたちのスキルやモラル面での自己コントロール力を向上させることで、最終的には「BYOD」(Bring Your Own Device=個人が所有する端末を学校に持ち込んで使用する)を目指している。そうした中でDQ Worldの導入を決めた理由を、山中氏は次のように語る。

「DQ Worldについて知ったのは4年ほど前です。情報モラル教育にありがたな、恐怖感や危機感をおおるのではなく、ICTの光の活用を進めたいと考えていたので、デジタル社会での正しい知識や振る舞いを身につけることができるDQ Worldの内容はとて素晴らしいと思っていました。当時はレベルアップ型ルールの浸透に注力していたので導入を検討するまでに至りませんでした。5年目に入り落ち着いてきたところで、次のステップとしてトライしたいと考えました。DQ Worldは身につけるべき知識・スキルが8つのカテゴリーで明確に示されているので、理解できていること、できていないことがわかりますし、なんとなくわかっている、できていることが本当に正しいのか、基礎基本を身につけることに役立つのではないかと期待しています」

今回、DQ Worldを実施したのは5年生で、取り組み期間は3か月間。最初の授業で3か月後のゴールに向けて、それぞれスケジュールも含めた目標設定を行った。今後は、子どもたちの自律学習を基本としながら、適宜、進捗を確認していくという。

「まだスタートしたばかりですが、子どもたちは楽しそうに取り組んでいます。“今まで使っていた言葉の本当の意味がわかった”とか、“デジタルリーダーがどういうものか具体的にわかった”といった感想も聞きますし、スコアが表示されたり、カードをゲットできたりという仕掛けもやる気につながるようです。どのように取り組んでいくか、それぞれが考えてスタートしていますが、ほかに関心が移ったり、途中で飽きてしまったりする子どももいるので、伴走は必要だと考えています」

5年生の児童は1年生のときからiPadを使い始めており、すでに一定のスキルやモラルを身につけている。改めてDQ Worldでデジタル・シティズンシップを学ぶことでどう変わるのか。3か月後の成果が楽しみだ。

レベルアップ型ルール

アップ
自由
度
なし

ゴールド
ブルー
グリーン
イエロー
レッド

基本：勝手に使用はなし
休み時間・登下校：使用不可
ブルー：ラーニング・ commonsで自由使用可
グリーン：先生の許可をもらい首掛けつけて可
スクリーンタイムの設定による制限
●学校外では必要なアプリのみ
●日常生活はすべて必要なアプリのみ

チェック方法
○スキル
(チェックテスト及び制作物)
○モラル
(自己・他者・教師・保護者)

特別カード ●別指導▶依存傾向、自己コントロール強化等



休み時間を利用してDQ Worldに取り組む児童





高知県
本山町

四国の真ん中で SDGsラリー

1泊2日、3つの体験!

高知の**本山町**で、
サステナブル。

学校関係者・塾経営者のみなさまに、
サステナブルな学びが待つ研修旅行をご紹介します!

高知県への旅行というと、海をイメージする方も多いと思います。
今、嶺北地域には、モンベル アウトドアヴィレッジ本山が拠点となり、
本山町ならではのサステナブルな学びを得られる
アクティビティがどんどん生まれています!

今回は、その数々のアクティビティをパッケージに仕立てた、SDGsラリーをご紹介します!

Program

林業体験

伐採した木材をクラフト!



木工の流れを追体験! 間伐の様子を見学した後、近隣施設でグリーンウッドワークに挑戦します。

農業体験

農水省認定の棚田で学ぶ!



棚田への水の供給の流れをガイドが解説。日本一に2度輝いた“天空の郷”米が生まれる秘密を学びます。

防災体験

モンベル協賛のサバイバル!



テントの組み立てや屋外での食事作りなど、アウトドアグッズを利用した防災訓練を行います。

\\ 忙しい先生方に…… \\
プランはALLお任せでOK!

研修旅行のプログラムはこちらでご用意済み。ご希望の日
程や参加人数をお伝えいただければ、手続き等はお任せい
ただけます。もちろん、ご要望・ご相談にもフレキシブルに対
応いたしますので、ぜひ一度ご相談ください。

\\ ご家族や学習塾向けに…… \\
少人数プランもご用意!

学校の研修旅行としてだけでなく、家族旅行や学習塾のプ
ログラムのひとつとしてもご利用できる少人数プランもご用
意しています。大自然のなかで学びを深める1泊2日は、日頃
の学習や生活に新しい発見をもたらします。

水と緑、花と文化のまち
本山町
Motoyama Town



まずはお問い合わせから! Webサイトでお待ちしています。
一般社団法人 土佐れいほく観光協議会
<https://tosareihoku-kanko.com/contact/>



新しい教育 カモン!!!

教育プロデューズ Channel YouTube

教育業界のキーパーソンが続々登場!

●私立学校

北鎌倉女子学園(元 開成中学校高等学校校長)
柳沢幸雄学園長

横浜創英中学・高等学校(元 麹町中学校校長)
工藤勇一校長

白梅学園高等学校(元 日比谷高等学校 校長)
武内彰校長

日本大学豊山女子中学校・高等学校
柳澤一恵校長
他

●教育系企業代表

株式会社学びエイド
代表取締役 廣政愁一

株式会社ユナイテッドプロジェクト
代表取締役社長 古岡秀士
他

●学習塾/教育系YouTuber

成基コミュニティグループ
佐々木喜一代表

個別指導塾CASTDICE
小林尚代表

教育百貨店チャンネル
平野夏紀氏
他

改革過渡期が続く 教育業界の現在と これからが見える!

【教育プロデューズChannel】では、
教育業界の最新情報について週2本のペースで
動画を配信しています。
教育関係者の皆様により良い情報提供をと
心がけているうちに数あるYouTubeチャンネルの中でも
ユニークなコンテンツが集まる独自性が出てきました。
「ニッチだけどリッチ」な【教育プロデューズChannel】の
視聴を皆様のルーティンに加えてください!

チャンネル登録
&グッドボタンは
コチラ↓



私教育新聞以外の
教育ネタを日々
つぶやいています。



皆さまにご愛読いただいている【私教育新聞】の公式
Twitter【私つい】。フォローはお済みでしょうか?
ゴリゴリの「教育」ネタから職場の同僚との雑談ネタになり
そうなライトなつぶやきまで配信しています。ツイートに
いただいたリプライから【私教育新聞】の特集記事のヒント
が得られたりしたらいいなあと考えていますので、皆さま
ひ、フォローや記事のリツイートなどドシドシお願いします。



【公式】私教育新聞編集部
@shikyoikunet

私教育新聞編集部が
少しでも気になった人は
フォローお願いします!



学校、塾、教育関連企業
など、教育業界の皆様
にフォローいただけて現在、

フォロワー
1,900超!

登録者数
76万人
突破!!

チャンネル登録・フォロー・グッドボタン👍よろしくお願いします!



投資バラエティYouTube
【令和の虎CHANNEL】

検索 令和の虎

※開設時から2019年3月31日までは
【就活の虎CHANNEL】として運用

チャンネル
登録を
お願い
します!



チャンネル登録者数76万人
超を実現した実践的な
ノウハウに基づいたご提
案が可能です。

チャンネル登録者数
765,963人
チャンネル動画総視聴回数
2,046本
322,209,051回

(すべて2022年12月26日現在)

ビジネス系のバラエティコンテンツで多くのフォロワー
獲得に成功している弊社のノウハウで、貴校の魅力を
最大限に引き出す企画性の高いコンテンツをご提供し、
チャンネルの立ち上げから運用までトータルにサポート
させていただきます。

謹賀新年 本年より

京華女子中学・高等学校

校長
塩谷 耕

〒1128613
東京都文京区白山5-13-5
電話:0339464434

京華中学・高等学校

校長
町田 英幸

〒1128612
東京都文京区白山5-6-6
電話:0339464451

多摩大学附属
聖ヶ丘中学高等学校

校長
石飛 一吉

〒2060022
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
電話:0423729393

日本大学豊山女子高等学校・中学校

校長
柳澤 一恵

〒1740064
東京都板橋区中台3-15-1
電話:0339342341

学校法人獨協学園
獨協中学校・高等学校

校長
上田 善彦

〒1120014
東京都文京区関口3-8-1
電話:0339433651

株式会社日能研関東

代表取締役
小嶋 隆

〒2240003
神奈川県横浜市都筑区中川中央1-26-10
電話:0459143000

成基コミュニティグループ

代表兼最高経営責任者(CEO)
佐々木 喜一

〒6040857
京都府京都市中京区烏丸通二条上ル
海鏡屋町2652SCビル5F
電話:0752568800

合資会社
マネジメント・ブレイン・アソシエイツ

教育業界を笑顔で包みたい!
中土井 鉄信

〒2310012
神奈川県横浜市中央区相生町4-70-2
ライズビル3F
電話:0456516922

株式会社水王舎

代表取締役
出口 汪

〒1500012
東京都渋谷区広尾5-14-2
広尾NICKビル5階
電話:0363040201

株式会社森上教育研究所

代表取締役社長
森上 展安

〒1020074
東京都千代田区九段南3-4-5
フタ九段ビル3階
電話:0332641271

英進館株式会社

代表取締役社長
筒井 俊英

〒8100021
福岡県福岡市中央区今泉1-11-12
英進館総本部ビル
電話:0927197788

株式会社ヒューマレッジ(木村塾)

相談役
木村 吉宏

〒5300057
大阪府大阪市北区曽根崎2-12-7
清和梅田ビル11F
電話:0663160777

株式会社SRJ

代表取締役
堀川 直人

〒1040031
東京都中央区京橋3-12-79F
電話:0368656380

株式会社ウイザス

代表取締役社長
生駒 富男

〒5410051
大阪府大阪市中央区備後町3-6-2
KFセンタービル
電話:0662644200

練成会グループ

代表取締役会長
奥山 英明

今村 明広 吉田 厚二
山本 直樹 山崎 敏史

株式会社内田洋行

代表取締役社長
大久保 昇

〒1350016
東京都江東区東陽2-3-25
住生興和東陽ビル
電話:0356346397

株式会社RGBサリヴァン

代表取締役
土岐 靖

〒1350063
東京都江東区有明1-4-11、406
電話:0364571178

株式会社千學館

代表取締役
孝橋 一

〒2510016
神奈川県藤沢市弥勒寺2-5-7
ハナミズキビル3号室
電話:0466539030

一般社団法人
日本青少年育成協会

会長
増澤 空

〒1620825
東京都新宿区神楽坂6-46
ロハル神楽坂ビル7F
電話:0332698411

株式会社ビジュアルビジョン

取締役社長
井沢 隆

〒3300845
埼玉県さいたま市大宮区仲町1-54-3
ビジュアルビル8F
電話:0486404300

株式会社ファーストトーン

代表取締役
平倉 博司

〒5410057
大阪府大阪市中央区北久宝寺1-9-6
ネオファーストビル301号
電話:0662103939

エデュケーショナル・デザイン
株式会社

FOUNDER
脇田 真太郎

〒4200852
静岡県静岡市葵区船屋町8-12 LINK
電話:0543614320

株式会社インタースペース

ママの情報プラットフォーム
ママスタ

〒1630808
東京都新宿区西新宿2-4-1
新宿NSビル8F
電話:0353398725

株式会社ユナイトプロジェクト

代表取締役社長
古岡 秀士

〒1630808
東京都新宿区西新宿2-4-1
新宿NSビル8F
電話:0353398727

究極のタイピング英語教育
アクティメソッド

代表
小林 京美

〒1500002
東京都渋谷区渋谷1-6-8
清水学園ビルB1F
電話:0353398727

ろしくお願いいたします。

株式会社R4

代表取締役社長
平松 洋一

〒4600008
愛知県名古屋市中区栄2-9-26
ポニー名古屋ビル3F
電話:0522122007

株式会社エデュ・パートナー

代表取締役
竹野 弘恭

〒1300026
東京都墨田区両国2-21-5
両国ダイカンサザ709号
電話:0336340313

株式会社道々楽者

代表取締役
佐藤 太志朗

〒1670021
東京都杉並区井草3-30-20103
電話:0359627745

一般社団法人Fora

代表理事
藤村 琢己

〒1030022
東京都中央区日本橋室町1-13-1
DKノア4F
電話:0368224100

えらぶ、おす、とどく。

かりるねつと

〒1018580
東京都千代田区神田美土代町7番地
電話:0363691530

株式会社エドベック

代表取締役
バジル・トングス

〒2200012
神奈川県横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークプラザ5階 Regus
電話:0120265494

株式会社レーベル

代表取締役
畑 健太郎

〒1010052
東京都千代田区神田小川町2-1
シンコミュニケーションズビル2F
電話:0335189678

神田印刷工業株式会社

代表取締役
田中 賢二

〒4640084
愛知県名古屋市中種区松軒1-1-5
電話:0527220611

株式会社藤和

代表取締役
後藤 範行

〒1620808
東京都新宿区天神町6
MKビル2F
電話:0352282351

東京リスマチック株式会社

代表取締役社長
寺澤 真一

〒1010047
東京都千代田区内神田2-14-6
神田アネックスビル
電話:0368536171

株式会社亀山デザイン

代表取締役社長
亀山 真一

〒4640850
愛知県名古屋市中種区今池4-15-18
サンクシヨシII 1601号
電話:0527538477

WORKAHOLIC
株式会社

代表取締役社長
岸本 大士

〒5300001
大阪府北区梅田1丁目11番4号
大坂駅前第4ビル9階9231600号
電話:0665566505

株式会社シンク

代表取締役
木村 雅士

〒5530003
大阪府大阪市福島区福島8-16-20
MSビル5F
電話:0664532181

株式会社ハウゼコ

代表取締役社長
神戸 睦史

〒5420081
大阪府大阪市中央区南船場2-10-28
NKビル6F
電話:0649638266

株式会社Chiyopet

代表取締役
千代 敬司

〒5460013
大阪府大阪市東住吉区湯里4丁目7-3F
電話:0643022737

株式会社ぐいっと

取締役社長
仲尾 英敏

〒1010051
東京都千代田区神田神保町3-19-5F
電話:0335111772

株式会社ジークス

代表取締役 最高経営責任者
渡辺 浩

〒1010052
東京都千代田区神田小川町3-9-2
BIZCORE神保町4F
電話:0362615941

株式会社アッタデザイン

代表取締役社長
國則 圭太

〒1410031
東京都品川区西五反田1-26-2
五反田サンハイツ607
電話:0345007716

株式会社ソニックグロウ

WEBデザイン・WEB広告プロデューサー
土井 保憲

〒1510073
東京都渋谷区笹塚1-50-1
Diva笹塚タワー1F
電話:0362768375

株式会社シードアシスト

代表取締役専務
片山 光祐

〒5300044
大阪府大阪市北区東天満2-8-1
若杉センタービル別館4F
電話:0663548088

株式会社
MONOLITH Japan

代表取締役社長
岩井 良明

〒1710033
東京都豊島区高田3-18-9
Mailビル6F
電話:0369152551

株式会社モノリス

取締役社長
岩井 詠子

〒4680051
愛知県名古屋市天白区植田3-1603
名鉄交通植田ビル3F
電話:0528000930

NPO法人
スポーツフォーラム愛知

代表理事
東野 健

〒4910871
愛知県一宮市浅野字大島92
電話:0586856026

00design
(ダブルオーデザイン)

柴田 高広

〒4880083
愛知県尾張旭市旭ヶ丘町
電話:09098920188

株式会社クロスウィッシュ

代表取締役
永沢 透

〒6048262
京都府京都市中京区油小路三条上ル
宗林町98英守ビル211
電話:0757087456

編集主幹が行く ダーツの旅 Leave the destination to darts

第62回

国公立・関関同立専門予備校
ナセバ

山中悠太郎(やまなか・ゆうたろう)塾長

本物の面倒見の良さを
求めて独立

奈良県橿原神宮前駅にある「国公立・関関同立専門予備校 ナセバ」の山中悠太郎塾長は、大手塾二つを経て独立した。様々な経験を積みつつ、時代に合う塾作りを模索し、自分の理想を追求しつつ、これまでの指導現場での違和感を解消した塾作りが実現した。特色を出しながら試行錯誤する毎日だが、着実に進化している「ナセバ」の山中塾長を取材した。



国公立 関関同立 専門予備校
Naseba
ナセバ

山中悠太郎塾長

大手塾での違和感や理想との
ギャップを解消したかった…

千葉: 創立の経緯について教えてください。前職は何でしたか？

山中: 大学生の頃からずっとこの業界です。学生時代に個別講師(小中高)、就職後の集団講師(中高)を経て現在に至ります。

社会人になってからは大手を2社経験しました。そのどちらもで抱いていた違和感や理想とのギャップを解消し、自らの理想を具現化し生徒や保護者のサポートをしたいと思い、「ナセバ」を創立させました。その際には自らの恩師の存在が非常に大きく、たくさん支援していただきました。

千葉: 大手塾での違和感についてもう少し具体的に教えてください。

山中: 一番は「面倒見の良さ」が現実的ではないということですね。

大手だとシステム上、どうしても取り残される生徒がいたり、自分の担当している以外の科目で困っている生徒がいたりします。そんな生徒への補講も形骸化しているのが実情でした。親との面談にしても、自分の役割が終われば、親の要望に応えたのかどうかかわからないままに進んでしまいますが、自分の塾であれば、顧客満足度にこだわってとことん仕事をします。現在それを実現して顧客満足度はかなり高いと自信を持っています。

橿原神宮前駅は
奈良県の交通の要衝

千葉: 周辺の塾や地域的な教育熱と特色について教えてください。

山中: 当塾がある、橿原神宮前駅は3つの線が乗り入れる比較的大きな駅で近辺には戸建てやマンションが立ち並んでいます。二駅ほど先には畷傍(うねび)高校という、県下トップ3に入る公立高校があります。その為、大小様々な規模の塾が乱立しています。特に個別指導型の塾は飽和状態になりつつあります。地域全体の教育熱は、平均よりやや高い程度だと思います。

千葉: 地域の学校との連携などはいかがですか？

山中: 学校の先生から言われた内容について生徒から相談されることがよくあります。「学校の先生はこう言っているが、どうなのか?」とか。科目選択も含めて、逆転で上位の学校に合格したい生徒のために、まず覚悟を決めさせ、生徒の性格や学力、必要な学習についてリードしていけるような立場にいたいですね。少なくとも生徒が学校と塾の板挟みにならないように気をつけたいです。



ナセバの三つの特色とは？

千葉: 指導の特色と塾長としての役割について教えてください。

山中: 指導の特長は大きく3つです。

① オーダーメイドのカリキュラム

一人ひとりの学力や志望校に合わせ、最短のカリキュラムを作成します。

生徒たちはそのカリキュラムに沿って日々の学習を進めます。

指導方法も様々です。個別の学習指導はもちろん、映像授業や問題演習、小規模の集団授業など本人の状況や科目単元ごとに最適な方法を使い分けます。

勉強の仕方もかなり細かくアドバイスします。
(問題集の進め方、暗記の方法など)

② サブスク通塾

定額で通塾回数、指導科目数、指導回数すべて無制限にしています。

これにより、生徒たちは毎日通塾して指導が受けられます。通常よりも速いペースでの学力伸長が可能です。

③ 定着度管理

学習した内容一つひとつに対して、本当に身につけているか確認を行います。その日に学習した内容のテストを次の通塾日に実施します。一つひとつ確実に身に付けたいという進め方でいく仕組みになっています。

塾長としての役割は、「受験のプロであること」「生徒の心が落ち着く場所を提供すること」です。大人もそうであるように、家・学校に次ぐ、自分の場所が必要な生徒も多いと思います。

本誌バックナンバーは
こちらから!



本紙編集主幹
ちば せい いち
千葉 誠一

今回は
奈良県
橿原神宮前駅

本紙編集主幹の千葉誠一が
地域ごとの私塾事情を探るため、
ダーツが刺さった地域へ赴きます。
各地域で活躍を続ける塾や、
珍しい取り組みを行っている塾に
取材を敢行！
ローカルな運営法の中に、
塾で生かせるヒントがある！？

まずは空間として少しでも居心地が良くなるように
努めています。精神的な部分でも、安心して目標に向
かって頑張ってもらいたいと思います。そのため生徒が委縮
してしまうような関わり方はしません(甘やかすわけでは
ありません)。

また、申告しにくいことや相談しにくいことも打ち明
けてもらえるように日々信頼関係の構築に努めてい
ます。

千葉:サブスクは教育業界でも広がりはじめていますね。
山中:そうですね、いつでも来て何でも頼れる塾に
なりたいです。生徒は親とは違う大人を求めています。
私たちが理解者になってあげれば、少しくらいきつく
叱られても納得して前に進むことができます。耳触り
の良い言葉だけでなく、時にはきつく叱りはっきり
と改善点を指摘することが大事だと思います。

進学していく流れで 重視したいのは「論理」

千葉:小中高から大学進学までつなぐための学びと
して、どんな流れが理想だと思われますか？

山中:前述の回答内容と同じ考えです。大学進学後に
重要な素養を、成長過程の柔軟な時期に育てておく必
要があると思います。

個人的に最重視したいのは「論理」です。すべての
根本になる分野だと思います。



使いやすい 「学びエイド」を活用!!

千葉:大学入学後の世界標準の教育に向けて、塾や
予備校はどのように変わっていくべきでしょうか？

山中:世界標準の教育には、「大学の体制やクオリティ」



と「生徒の素養や学びに対する意識」とどちらも必要だ
と思います。「学びエイド」を活用した指導を行って
いますが、とても使いやすいと思います。

塾・予備校が携われる領域は生徒側の部分です。

私が考える学生の素養とは、

- ・能動的に情報を獲得できる力
(調べ方、読み取り方など)
- ・得た知識を知恵として活用できる力
- ・物事を計画的に進められる力
- ・円滑に意思疎通できる力

…などではないかと考えています。

こうした素養が備わった大学生は大学で修めた学問
を昇華させ、職や研究に活かしていくのだと思います。

そしてこれらの力は、既に入試の現場においても試
され始めていると感じます。総合型選抜・学校推薦型
選抜はその代表例です。

総合型・学校推薦型での入学者が約半数に上る今、
塾や予備校の役割は再定義される時期が来たと思
います。基礎的な学力を上げることは至上命題でありな
がら最低限の目標です。

上記のような素養も育める指導モデルが必要だと
個人的に考えています。よって、塾や予備校は生徒の
自主性が芽生え学び方・進め方も身に付けられる場所
へと変わるべきだと思います。

また、勉強と向き合ううえで最も大きな推進力とな
るのは本人の「志」だと思います。これは他者から教
えてもらうものではありませんが、自身の志に気づかせ
ることや明確にしてあげることはできると思います。
様々な業務の中忙殺されがちなこの業界ですが、時間
と労力がかかることにこそ、必要性和価値があると思
っています。

千葉:公立中高一貫校対策などはしないのですか？

山中:中高生が中心なので、小学生の指導はまだ考
えていません。また、総合型選抜の内容についてはつね
に情報を集めて注意しています。

塾を続けていくためには 健康第一

千葉:個人的な夢や目標、趣味(最近凝っていること)
について教えてください。

山中:趣味は映画鑑賞と、フィットネスです。ナセバを
始めてから健康に対する意識も変わりました。適度な
休養と体力作りの重要性を実感しました。数年ブラン
クがありましたが、3か月ほど前から近くのジムでのト
レーニングを再開しました。会社員時代の方が、時間
を作りやすかったので今は工夫して効率的にトレー
ニングを行っています。

個人的な夢は、世界遺産を巡る長期旅行に行くこと
です。本来は既に叶っているはずでしたが、出発に向
けて準備しようかというタイミングでコロナが流行り
始め頓挫しました。向こう10年以内にリベンジしたい
と思います。自然遺産の雄大さも、文化遺産の荘厳さ
もこの目に焼き付けたいです。

千葉:体力作りのきっかけは何だったのですか？

山中:夏に心臓が痛くなり、食生活を見直しましたが、
基礎体力作りが大事だと感じてジムに通うようになり
ました。ジムは環境が変わりストレス発散にもなります。
楽しくやれば体力だけでなく精神的にもプラスです。

千葉:本日はありがとうございました。

(2022年11月24日、zoomにて取材)



私塾リアル Vol.59

いろいろな塾の
いろいろなイマが
見えてくる

本紙編集主幹
千葉 誠一

ガラパゴス化した 中学受験を変えたい!!

神奈川県内の大手塾で大学新卒から30年勤め、中学受験部門の責任者として2年連続オリコン1位も獲得した渋谷隆之氏が独立し、今年の夏から国語専門塾を開校した。独自の考えを持つ渋谷氏を訪ねて、なぜ国語専門塾なのか?そして現在の中学受験教育の問題点などを聞いた。

本誌バックナンバーは
こちらから!



In the case

中学受験PREX

神奈川県横浜市



塾長
渋谷隆之
(しぶた・たかゆき)氏

国語専門塾として 第二の人生がスタート

千葉:開塾されたのが最近とのことですが、きっかけは何でしょうか?

渋谷:30年間勤め、会社には今でも感謝しております。しかし、残りの人生を考えた時、自分が理想とする塾作りを試みようと思い独立を決意しました。中学受験の責任者でしたから、今年の2月までは生徒たちに全力投球をすることが責務だと思っていましたので、2月12日からは完全に無職からのスタートでした。(真っ白な状態からの再スタートではなく、無色でした笑)。ゼロの状態から、会社登記・銀行口座の開設などをし、車で走り回って場所を探して現在の教室を見つけました。教材やスクールの備品の調達、ホームページやチラシの作成など、せっかくの機会だからと自分でできることは自分でやるというコンセプトでしたので、社会人経験値は上がったようです。7月1日からスタートして4ヶ月ですが、なんとか道は作れました。小6と小5の2学年対象ですが、小6は即満席、小5もクラス増設となりました。国語専門塾と尖ったのが良かったのだと思います。



千葉:退職してから起業するまで大変だったのでしょうか?

渋谷:不安もありましたが、たくさんの方々からお誘いを受けたり、アドバイスをいただけて支えていただいたと思います。結局は、今までの繋がりのおかげでした。一番は、SNS(ツイッター・ブログ)を再開し、卒業生の保護者の皆様などからの応援をいただいたことが何よりでした。開校チラシを1回しか撒いておりませんが、口コミで当塾を知っていただいた方が増えるという流れにも繋がりました。横浜市中区の石川町というところに塾がありますが、東京都や小田原市からお通いの方もいらっしゃいます。

ガラパゴス化している 中学受験を変えたい

千葉:中学受験専門塾に特化していますね? 特色について教えてください。

渋谷:日本の中学受験というのは、いわゆる「ガラパゴス化」していると思っておりまして、算数の特殊算など、進学したら使わない勉強をたくさんしていたり、アクティブラーニング型の学習が正しいとされているのに、ひたすら塾では受け身の学習だったり…中学受験の学びがそこだけで完結し、実社会に対応していないのは良くない、カリキュラムを消化するだけの塾ではいけないという思いで塾を立ち上げました。塾で小6だと週に3時間学ぶ、その同じ3時間をもっと将来に繋がる別の学びに変えたいのです。

おかげさまで説明会で共感していただいた保護者が多く、ほぼ全員が入塾されました。また、理想論だけでは顧客に見放されますが、偏差値40台前半の生徒が3ヶ月で60台に上がるなど、成果を出している生徒がたくさん出たことでも、ホッとしています。

学びのペースは ゲームやテレビでも良い

千葉:教育ICTの活用法について教えてください。

渋谷:You tubeの無料動画を積極的に授業内でも使っています。例えば「NHK for school」というサイトには、社会や理科の動画がありますが、それを見てお通いの塾に参加するだけで、大きく成績を伸ばした生徒もいます。スポーツの世界でもうさぎ跳びや水を飲むなどという指導が見直されていますが、勉強でも苦勞して暗記しなくてはいけないなどという先入観はなくさないといけないと思います。楽しく勉強して、成績を伸ばすに越したことはありません。国語専門塾ですが、進路指導のほか、4教科の学習のコーディネートもしてあげたいと思います。

さらなるチャレンジも準備中?!

千葉:塾長として個人としての夢や趣味について教えてください。

渋谷:趣味は海外旅行で過去60カ国以上訪れており、コロナ前は年に3回は海外に行っていました。現在は海外旅行を封印して、スポーツジム通いを再開しました。マラソンに出るためにもありますが、まだまだ働くために資本である体を鍛えています。今後は、起業して繋がりがあった方と新しいことを始める準備中です。



(2022年10月26日、
横浜市中区石川町にて取材)



中学受験PREXのHPは
こちらから!



<https://sakura-sakasou.com/>

自分都合を良しとする風潮をやめにする！

最近の日本は、非常にインチキな風潮に満ちている。若者を無能にしてしまうような考えに満ちている。私にはそう思える。

例えば「自分の好きなことをやれ!」とか「効率的に学んで最大の効果を得よう!」とか「自分に最適な学びをすればよい!」とか。自分都合を良しとってしまう教えや考えが横行している。また、それを言う大人も無責任極まりなく、自分はそのようなことを最初からやっていたわけではなく、ある地点まで来てそうしているのに、それを忘れて、若者に自分都合で人生は良いのだと教えているのだ。こういう無責任な大人が企業経営者や教育関係者に多いように思うのは、私だけだろうか。

こんな自分都合を言っ、何の徳=得があるのか。そんなことを若い者に言っ、いったい若者をどのような大人にしたいのか。少なくとも、自分都合を良しとする限り分別のある大人にはならないだろう。ましてや社会の構成メンバーにはなれないように思うが、どうだろうか。

私たち人間は、依存状態から自律状態に変化してこそ、子どもから大人になっていくのだ。完全に自律することはないが、少なくとも、自律的に、社会のルールに従って自分の行動をコントロールしていかなければならない。それが大人になるということだ。その訓練を子ども時代にしなければ、どうなってしまうのか。この観点を、自分都合で良いという大人は、考えているのか。そう思うわけだ。

与えられた義務を好きになるまでやっこそ自分自身か

成長できるというのに、この真実を覆い隠して、自分のやりたいことだけやれば良いという風潮は、誰がどんな目的で流行らせているのか。そして、なぜ教育関係者は、この風潮に乗っ、今までの教育を否定し、特に日本の教育を否定し、子どもを甘やかせるような自己都合的な教えを説くのか。子ども時代に他人=大人に従うこと、不自由を受け入れること、自分の都合では何事も上手く行かないということを経験する機会をどうして奪うのか。私には、子どもを大人にしていく視点がどんどん社会から消えていくように思っ仕方がないのだ。

こんな世間の安易な教えに従っはダメだ。自分の成長は、自分自身に負荷をかけるところから始まるのだ。そのことを忘れないことだ。自分のやりたいことではなく、やらなくてはならないことを好きになるまでやることだ。そうしなければ人間的な成長などない。自分都合な人間は、まだまだ幼稚なだけなのだから。私たち教育関係者は、子どもたちにこのことは教っていくことだ。



中土井鉄信の 新トク!

連載
コラム



なかどい てつぶ

中土井 鉄信

合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツ代表

2001年、自らの理想を実現するため教育機関専門のコンサルタント会社として合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツを設立。アドラー心理学・教育学・発達心理学等の研究から「セルフ・エスティーム(自己重要感・自己有能感)」を高めることが教育の使命だと確信し、この考えを基に学習塾や学校のコンサルティングを行い、成果を上げ続けている。

特別支援学級でのユニボ先生の役割

11月に沖縄の小学校に2台のユニボ先生を持っていき、特別支援学級で数回の授業を行って来た。その学級の児童数は6人。実施したカルタ教材は、「時計の学習」と「聞く力を育てる」の2つである。

「時計の学習」は、ユニボ先生がたとえば「12時ちょうどはどれ?」と読み上げ、12時のカードを取るという単純な内容で、遊びながら瞬時に時計が読めるようになることを狙ったものだ。同じカードでも「今、10時ちょうどです。2時間後は何時でしょう?」と読み上げれば、時間のたし算の学習もできる。「聞く力を育てる」カルタは、前回書いた通り、笑う、泣く、怒るの3つの表情をしている動物カードが用意されていて、ユニボ先生が「その動物は怒っていません。その動物は笑っていません。その動物はウサギです」のように読み上げる。「その動物は怒っていません」を聞いて、怒っているカードを除外し、「その動物は笑っていません」を聞いて、泣いている動物のカードにターゲットを絞り込み、最後の「その動物はウサギです」によって「泣いているウサギ」の正解カードを取る流れになる。読み上げの内容を最後まで聞き、同時にターゲットのカードを絞り込む作業が必要になるため、集中力が必要だ。

他者とコミュニケーションするためには、相手の話を聞きながら、同時に内容を理解し、さらに自分なりの考えを組み立てていく力が必要となる。担任の先生からは、「人の話を集中して聞けるようになることは授業を進め

るための基本で、この練習になる。また、目の前の狭い視野の範囲内だけを見る子どもが多く、目を素早く移動させる練習にもなる」とのご意見をいただいた。

今回、ユニボ先生について学習効果とは別の重要な効果が確認できた。写真を見ていただくと、5人の子どもがカルタをしている。実はここに参加していない子どもがもう1人いた。その子は、みんなで何かすることが苦手で、さらにじっと座ってられないタイプである。5人がカルタをしている間、別のユニボの前に自分から座り、話しかけることから始まり、先生と時計のカルタや算数の学習を始めていたのである。担任の先生は5人をユニボ先生にまかせて、指導が難しい1人の子どもに寄り添う状況を作れたということだ。特別支援学級では、こういう状況を作れる何かを求められていることを感じた場面であった。



教育 ビジネス 最前線



すずき ひろみ

鈴木 博文

有限会社ソリューションゲート
株式会社エデュゲート 代表

1957年生まれ、北海道出身。
教育コンテンツクリエイター。
ロボット先生実現に向けて取り組み中。
趣味は自転車やギター等多彩。

現代の教育現場に不可欠なICT だからこそ使いやすい機器を 用途・目的に応じたPCの導入で 教員の業務効率が向上

藤村女子中学・高等学校

現在、教育現場でのICT活用が進む一方で、学校の教職員にかかる仕事の負荷が増大しており、長時間労働が大きな課題になっている。教師の業務効率化を進めるためには学校全体の仕組みづくりが必要なのはもちろんだが、使用する機器を見直すだけでも業務効率改善に役立つのではないかと。そうした観点から株式会社マウスコンピューターでは、その製品ラインアップの中から教育現場で活用しやすいと思われる2機種を、東京都武蔵野市の藤村女子中学・高等学校に提供。実際に業務に使用してもらい、その効果のほどを聞いた。

今回提供された製品とその特長

MousePro-NB541H

[Windows 11 Pro] ナローベゼルの大画面! DVDドライブの搭載など豊富なカスタマイズで幅広い用途に活用できる、15.6型ビジネス向けスタンダードノートPC。CPUは、第11世代「インテル® Core™ i5-1135G7 プロセッサー」を搭載し、業務を高速かつ効率よく処理する。



DAIV 4N

[Windows 11 Pro] 第12世代「インテル® Core™ i7-1260P プロセッサー」搭載。高性能・薄型・コンパクトで、Thunderbolt 4にも対応。写真編集/イラスト作成、DTP/WEBデザインにオススメのクリエイター向けノートPC。画像や写真編集だけでなく、動画編集やCG制作にも活用できる。



パソコンの動きが早くなれば 業務効率は確実に向上する

社会のデジタル化に伴い学校現場でのICT活用が推進され、同時に教職員の業務効率化、働き方改革のためのICT活用も進められてはいるが、すべての学校で十分な環境が整っているとはいえない。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてオンライン授業が導入され、学校説明会などもオンライン開催が当たり前になり、動画編集や配信などを行う機会も増え、パソコンの用途は拡大している。

そうした中で今回、マウスコンピューターから提供されたパソコンを使用したのは、藤村女子中学・高等学校 入試広報部部長 芦澤歩夢先生と、入試広報部副部長 石川彩加先生のお二人。率直な感想を聞いた。

「MousePro-NB541H」を使用した芦澤先生

「普段からパソコンで行っている業務のうち、メールの送受信以外のすべてをNB541Hで行うことにしたのですが、無駄な時間というのがまったくなくなりました。動き出しが非常にスムーズで、やりたいと思った作業にすぐに取り掛かることができます。学校説明会などの申し込みフォームを私が一元管理しているのですが、毎朝、前日の申し込みデータをダウンロードしているのですが、その時間だけを比べても格段に速いです。予約表作成などの作業もとてもスムーズですし、保存されているデータの読み込みも早く、作業事案の短縮に大いに役立っています。

スプレッドシートへの入力作業を行うことも多いのですが、従来のパソコンだとインターネットに繋がりにくいということもあってか、入力した内容がなかなか反映されずイライラすることもありました。オンライン上でデータを共有し、共同作業ができるという利点が活かさずかえってストレスを生むような状況でしたが、NB541Hではそうしたストレスもまったく感じません。当校では教員の勤怠管理をはじめ、各種の申請や経費精算などもオンラインのシステムを利用しているのですが、そうした作業もわずかな隙間時間に完了す



中学1、2年生と高校1、2年生にタブレットを配布。授業では教員もタブレットを活用している。

きます。これまでは、休み時間中に片づけようと思っても、システムにつながるのを待ち、必要な情報を入力してそれが反映されるのを待っているうちに休み時間が終わってしまうこともあり。仕方がないのでそのまま離席して、自分では完了したつもりでも、実はきちんと処理されていなかったという失敗もあり、それが防げるだけでも助かります。

デスクトップ上で簡単な書類作成するだけならともかく、大量のデータを処理したり、オンライン上での作業が増えたりすると、パソコンの性能によって効率に大きな差が出てくるということが実感できました。

「DAIV 4N」を使用した石川先生

「これまで使っていたパソコンに比べ、とにかく処理速度が速くて、インターネットに繋がるのも速いです。起動するのを待つとか、インターネットに繋がるのを待つということがなく、作業中にフリーズするようなこともないので、業務効率はとてもいいです。作業を始めて完了するまでストレスを感じることもありません。

授業で使うプリントや資料の作成など、日常的に使用するのはWordやExcel、PowerPointなどですが、学校説明会や入試練習会など、外部向けに配布するイベント告知用のチラシ作成にCanva(キャンバ)というデザインツールを使っています。これまで、オンライン上で作業している最中にフリーズしてしまうことがあって困っていましたが、DAIV 4Nではそういうこともなく非常にスムーズに作成できました。作成時間も3~4割、削減できていると思います。

動画編集も、これまではパソコンを使うと動作が遅くなったりフリーズしたりすることが多いので、もっぱら携帯で作業をしています。DAIV 4Nではまだ試していないのですが画面も見やすいし、指先だけで作業をするよりも楽に速くできると思うので、楽しみです。

テンキーとDVDドライブ搭載の15.6型 持ち運びしやすい14型

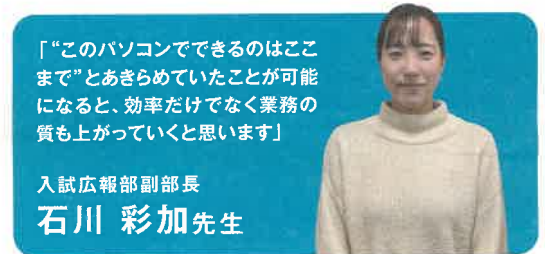
今回提供されたMousePro-NB541Hは15.6型、DAIV 4Nは14型。そのサイズ感についても聞いた。

「当校では、中学1、2年生、および高校1、2年生にタブレットを配布しており、教員も授業ではタブレットを使用しているので、パソコンを持って移動することは多くありません。ですから、個人的には多少大きくてもテンキーやDVDドライブがあるNB541Hの方が使いやすいと思います。数字を入力することも多く、DVDで保管してある学校の記録用やパンフレット制作用に撮影した画像なども管理しやすくなります。授業でDVD動画を見せる際にも、DVDドライブがあればパソコンとは別に外付けのDVDドライブを用意する必要がありません。ただ、持ち運びには14型のほうが楽なので、パソコンを持って外出する機会が多い教員の意見は



「大学生や社会人になるとノートパソコンを使う機会が自ずと増えるので、1人1台PCを検討する必要もあると考えています」

入試広報部部長
芦澤 歩夢先生



「このパソコンでできるのはここまで」とあらかじめ聞いていたことが可能になると、効率だけでなく業務の質も上がっていくと思います」

入試広報部副部長
石川 彩加先生

異なるかもしれません。どちらがいかは、何を優先するか次第だと思います」と芦澤先生。

すべてハイスペックにする必要はない 目的・用途に合ったものが必要

今後、新型コロナが収束してもオンライン説明会などがなくなることは考えにくく、それどころか、インターネットを活用した広報活動やイベント告知などの重要性はさらに高まっていくだろう。そうした環境も考慮し、芦澤先生は「今回、2台のパソコンをご提供いただき実際に使ってみて、目的・用途に合ったものが必要だということを感じました。通常の業務ならMousePro-NB541Hで十分で、HPやチラシ作成などを担当する教員はDAIV 4Nを使うなど、業務内容に応じて機種を選べるといいですね。ほかに、通常業務とは別途、凝った動画の作成や配信などに使用する共用のパソコンがあるというのが理想です」という。

今やパソコンは教員にとっても仕事道具として欠かせないものであり、その使い勝手や性能の善し悪しが作業効率にも影響することは明らかだ。だからといって、教員が使用するパソコンをすべてハイスペックなものにする必要はなく、業務内容や目的・用途に応じて必要な機能や性能を備えることが重要なのだ。

マウスコンピューターでは初心者や学生向けから、ビジネス向け、ゲーム向け、クリエイティブ向けなどさまざまな用途・目的に対応する機種が豊富に揃っており、さらに、必要に応じてソフトを追加したり機能を強化したりといった、カスタマイズも可能だ。業務効率向上の第一歩として、現在使用しているパソコンで日々の業務をスムーズに行なえているか、業務内容に必要な機能を備えているかどうかを見直してみよう。



マウスコンピューター 検索

株式会社
マウスコンピューター

〒100-0004 東京都千代田区大手町2-3-2
大手町プレイス イーストタワー6階

ご購入・カスタマイズのご相談はこちらまで
※土日祝日は個人窓口に転送されます。

TEL:03-6636-4323

月~金 9:00-12:00 13:00-18:00 土日祝 9:00-20:00

MAIL: giga@mouse-jp.co.jp